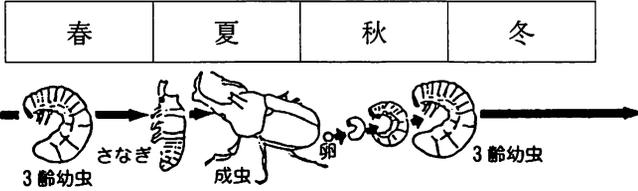




# 取り組みの手引き

## 昆虫の探し方のこつ (5つのポイント)

1. 虫が1年をどう過ごしているか (周年経過) を知る。



2. 卵・幼虫・蛹にも気をつける。  
成虫より数が多いので意外に探しやすい。

腐葉土・たい肥・おがくず  
樹液・果物

3. 虫の食べ物を見つける。

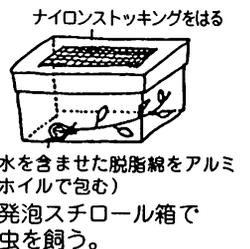
4. 虫の日課表を知る。



5. 虫の生活のあとに目をつける。  
新しい虫食いあと、糞など。巣やぬけがらも。

## 虫を育ててみましょう

虫をつかまえたら、ビンやポリ袋に入れて持ち帰り、飼育してみましょう。虫かごにゴチャゴチャ入れないで、1匹ずつ葉や枝をつけたまま、暗く涼しい状態で運びます。簡単な飼い方は右の通りです。ただし、最も大切なことは、虫への愛情です。



## 死んだ虫は標本に

体が柔らかいうちにポリ袋に入れて冷凍(解凍すればいつでも標本が作れる)→針をさして10日位乾燥(右図)。薬品不要、ゴキブリに注意→発泡スチロール箱にガラスを張って標本箱にする(ナフタレンを入れる)。標本は虫めがねでじっくり形を調べる時にどうしても必要なものです。



九 州 本 島	甌 州 本 島	草 批 島	三 島 村	大 隅 諸 島	ト カ ラ 列 島				奄 美 諸 島			備 考		
					口 隊 之 島	小 隊 蛇 島	中 之 島	平 島	横 上 ノ 根 島	喜 界 島	奄 美 大 島		加 計 呂 麻 島	請 路 島
○土着と思われる記録あり														
○土着か否か不明														
●記録はあるか非土着														
146	コフキヒメイトンボ													
147	リュウキユウベニイトンボ													
148	タイウエンウチヤンマ													
149	ギンヤンマ													
150	ハラボソトンボ													
151	オオシオカラトンボ													
152	シオカラトンボ													
153	ウスバキトンボ													
154	シヨウジヨウトンボ													
155	ヒメトンボ													
156	ハラビロカマキリ													
157	サツマゴキアブリ													
158	トゲナサフシ													
159	タイワンクツワムシ													
160	タイワンエンマコオロギ													
161	マツムシ													
162	ヒシバツタ													
163	オンブバツタ													
164	シヨウリョウバツタ													
165	トノサマバツタ													
166	ツチイナゴ													
167	ハネナガイナゴ													
168	シラホシカメムシ													
169	ホソヘリカメムシ													
170	アカギカメムシ													
171	アメンボ													
172	クマゼミ													
173	ニイニイゼミ													
174	クロイワツク													
175	キョウチクトウアブラムシ													





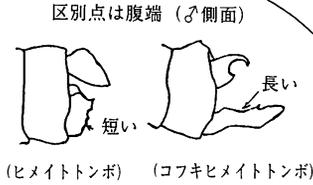
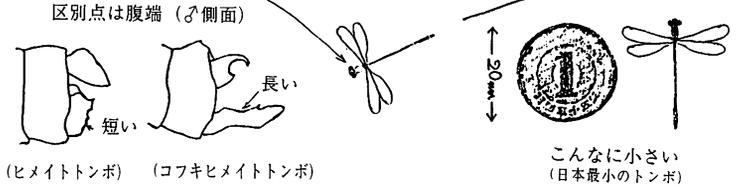
### 146 コフキヒメイトトンボ (イトトンボ科)

**時期** 4～11月。年に何回発生するのだろうか？

**場所** 大きな池なら草の多い周辺部に見られる。  
小さな池や水たまり，沼，休耕田にもすむ。

**解説** 若い♀は赤色，成熟すると緑色になる。水辺の草むらを探すと，すごく小さくて色とりどりのこのトンボはすぐに見つかる。上から水面をのぞくと成熟した♂の白粉が目立って，白い点が飛んでいるよう。県本土にも多い。

**似た虫** 徳之島，沖永良部島にはヒメイトトンボの記録があるが，現在も生息しているかどうかは不明。



こんなに小さい (日本最小のトンボ)

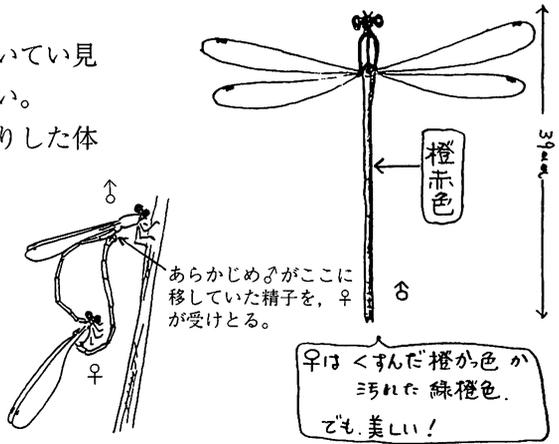
### 147 リュウキュウベニイトトンボ (イトトンボ科)

**時期** 4～10月

**場所** 水草の多い平地の池沼，溝などにはたいてい見られる。大きな池では岸辺の草むらを探すとよい。

**解説** やや大きめのイトトンボだが，ほっそりした体と美しい橙～赤色が目につきやすい。

**似た虫** イトトンボ類は種子島に9種，奄美大島8種，徳之島・沖永良部島に各7種，中之島に4種いるが，橙赤色系のイトトンボは本種だけ(ただし，県本土にはよく似たベニイトトンボもいる)。また熊毛郡下では黄色のキイトトンボも見つかる。



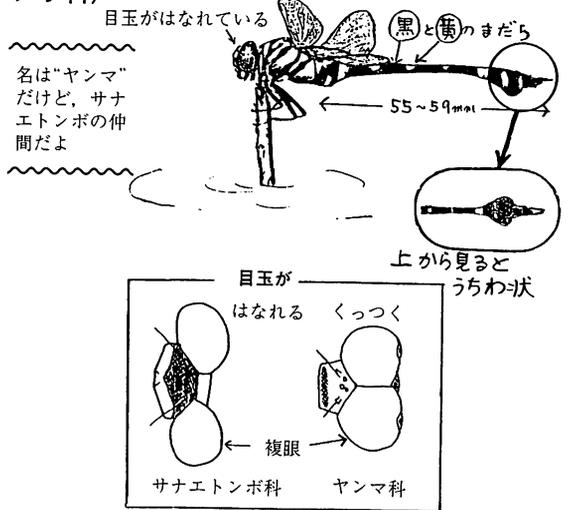
### 148 タイワンウチワヤンマ (サナエトンボ科)

**時期** 5～9月

**場所** 平地のやや大きめの池沼にはほとんど姿が見られる。汚染にも強い？

**解説** 水面の1m前後上を“おまわり飛行”しているものや，棒ぐいなどに止まっているものがすぐに見つかる。

**似た虫** サナエトンボ科は種子島に5種，奄美大島に3種，徳之島に2種いるのみ。ほかの奄美諸島には本種だけしか発見されていない。“うちわ状”の腹端が特徴。ウチワヤンマは県本土だけに生息し，離島には産しない。



## 149 ギンヤンマ (ヤンマ科)

時期 4～10月

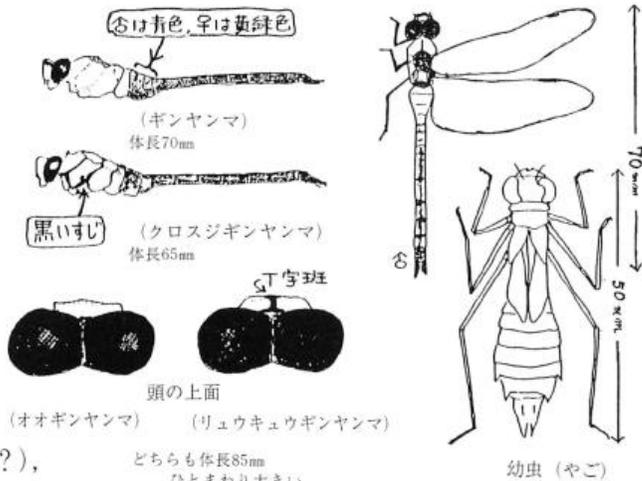
場所 明るい池や沼。水田、溝川などで羽化。水辺を離れた畑などにも見られる。

解説 卵から成虫になるまで約1年かかる。

似た虫 クロスジギンヤンマ：種子島のほか最近奄美大島でも見つかった。4～6月に注意。

オオギンヤンマ：トカラ以南は土着(?)、以北は迷トンボ。

リュウキュウギンヤンマ：トカラ以南に分布。



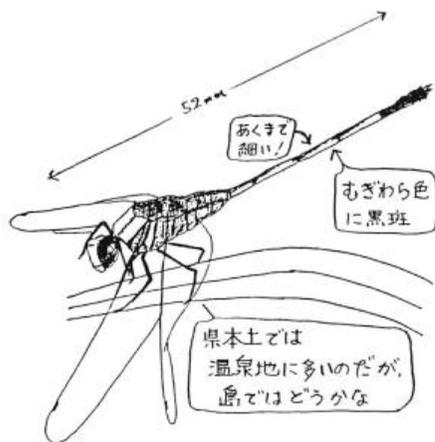
## 150 ハラボソトンボ (トンボ科)

時期 4～11月

場所 平地の明るい池沼、水田、溝川の周辺に多い。人里でもよく見かける。

解説 地表、石ころ、低い草、枯れ枝などによく止まる。シオカラトンボとは生息地の好みがちがうかも知れない。

似た虫 シオカラトンボ (No152)：腹がハラボソトンボより少し太い。



## 151 オオシオカラトンボ (トンボ科)

時期 5～10月

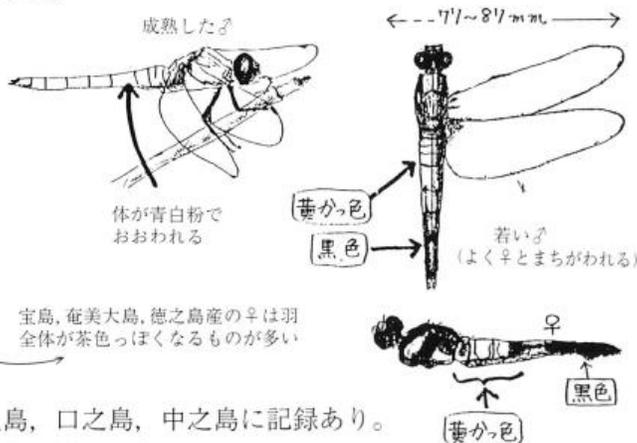
場所 平地から山地の池沼、流れのゆるやかな溝川周辺に多い。明るい平地より木かげのある林縁、路傍でよく見かける。

解説 地面や低い小枝などによく止まる。トカラ口之島以南のものは、屋久島以北のものと同様の斑紋が少しちがっている。別亜種か?

似た虫 ホソミシオカラトンボ：屋久島、口之島、中之島に記録あり。

(胸の紋なく、腹は細い。♂は青白色、♀は黄かっ色)

タイワンシオカラトンボ：黒島、屋久島、口之島、中之島、悪石島、奄美大島、沖永良部島に記録あり。(ホソミに似るが、後羽のつけねに茶色の紋あり)



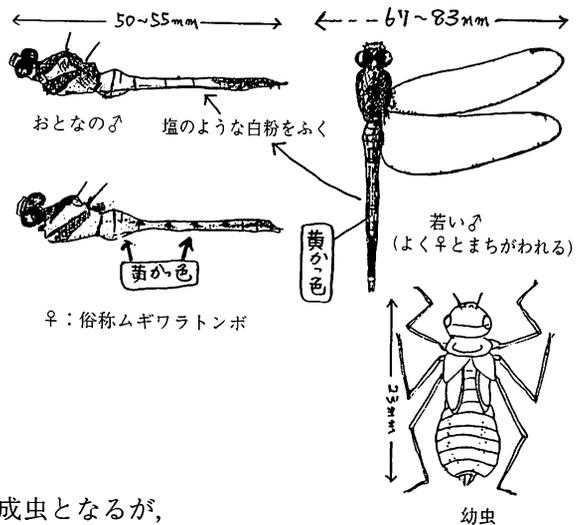
## 152 シオカラトンボ (トンボ科)

時期 3～11月

場所 池沼、水田、溝川などで幼虫が育ち、人里にも多い。

解説 ♂は成熟すると白粉を吹いて“塩からとんぼ”の姿になる。

似た虫 ハラボソトンボ (No150)：シオカラトンボより腹が細い。



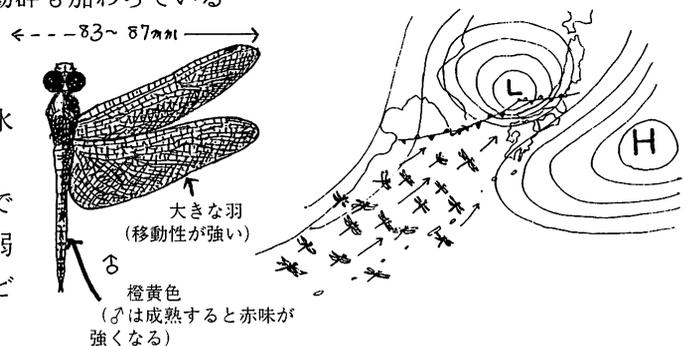
## 153 ウスバキトンボ (トンボ科)

時期 3～11月。少数の越冬幼虫が春に成虫となるが、これに南西風に乗った南方からの移動群も加わっているらしい。

場所 池沼、水田、溝川、プール、貯水槽などで発生し、路上、校庭、水田の上などで群飛する。

解説 高温期には卵から1カ月位で成虫になるらしいが、幼虫は寒さに弱く越冬できないものが多いという。どの鳥まで越冬可能か？

似た虫 ハネビロトンボ (後羽つけ根に褐色斑) や アメイトンボ (後羽の中央近くにあめ色斑) も混じって移動するらしい。



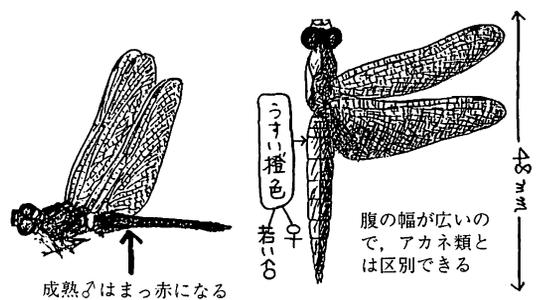
## 154 ショウジョウトンボ (トンボ科)

時期 4～11月

場所 平地の池や沼、水田、溝川などに多い。明るいところを好む。

解説 水辺をすいすい飛び続けるものが多い。♂♀とも羽化後間もないものは羽が橙黄色、成熟するとやや透明になる。

似た虫 アカネ類 (アカトンボ類) では種子島、奄美大島にナツアカネ、熊毛郡下と口之島、宝島にマユタテアカネ、屋久島にヒメアカネなどがある。ベニトンボは南薩の池田湖、鰻池が国内唯一の産地であったが、近年奄美大島 (1986～)、徳之島 (1988～) でも発見され定着しているようすである。



ショウジョウ(猩猩)は中国の仮定の怪獣で、毛は朱紅色。酒を好む

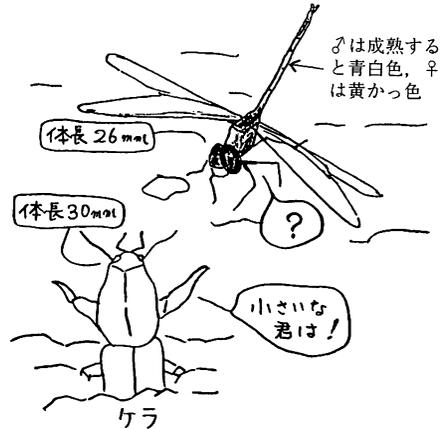
## 155 ヒメトンボ (トンボ科)

**時期** 3～11月

**場所** 平地の溜池, 水田, 湿地の浅い水溜りなどに多いが, 水辺を離れた農道や荒地などでも見られる。

**解説** 地面によく止まるミニとんぼ。春より秋の方が多いかも知れない。屋久島の南部とトカラの宝島以南に生息する。トカラの他の島にはいないのか？

**似た虫** コシブトトンボ：腰（腹部の前半）が太くふくれて一見して別種とわかるが, ミニとんぼである点は同じ。喜界島, 奄美大島, 徳之島で記録あり。



## 156 ハラビロカマキリ (カマキリ科)

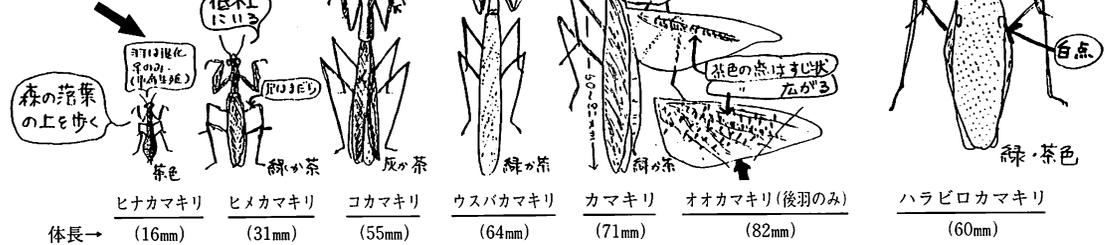
**時期** 8～10月

**場所** 低い木, やぶに住む。

**解説** 腹が幅広くて, 前羽に白点がある。

鹿児島県のカマキリはこの7種とサツマヒメカマキリだけです。

**似た虫**



※各島に何種いるのか, よく調べてありません。ぜひ探して, 結果を博物館まで知らせて下さい。

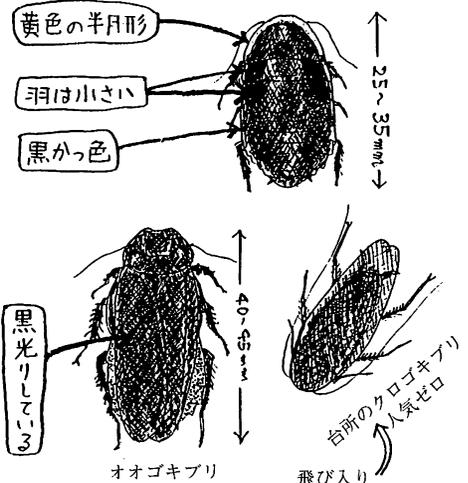
## 157 サツマゴキブリ (マダラゴキブリ科)

**時期** 一年中見つかる。

**場所** 森林やその周辺の倒木・朽木・立木の樹皮の下。家の中には入らない。

**解説** 卵胎生で, ♀の体内で孵化した幼虫が母体から出る。

**似た虫** オオゴキブリ：朽木の柔らかくなった材をくずすとよく出てくる。ワモンゴキブリ・コワモンゴキブリ（いずれも前胸に輪紋あり）, クロゴキブリ, チャバネゴキブリなどは家屋内でおなじみのはず。大部分は野外のゴキブリで, 奄美大島だけで24種がいる。



# 158 トゲナナフシ (ナナフシ科)

鹿児島県で見られそうな種類(7種)

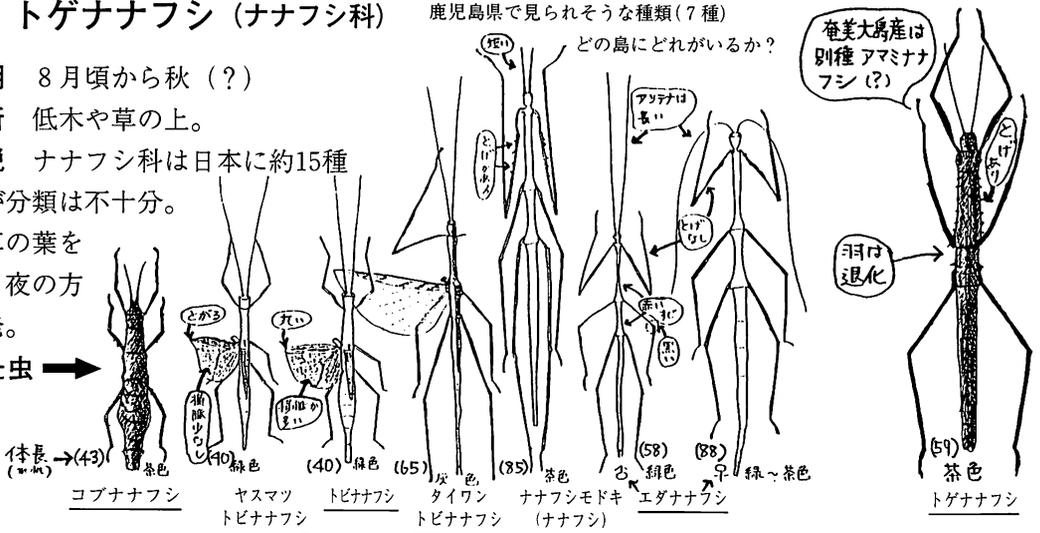
時期 8月頃から秋(?)

場所 低木や草の上。

解説 ナナフシ科は日本に約15種いるが分類は不十分。

木や草の葉を食べ、夜の方が活発。

似た虫 →



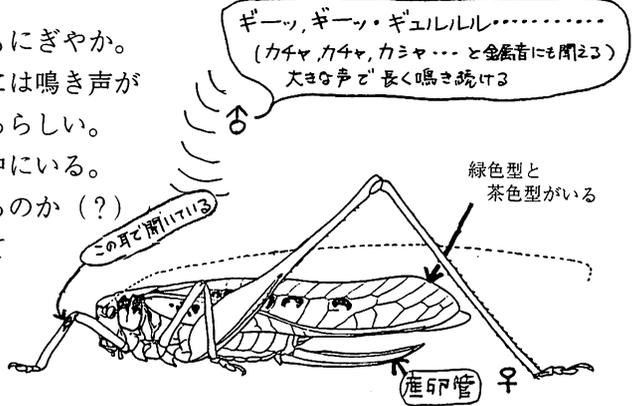
# 159 タイワンクツワムシ (キリギリス科)

時期 10月から鳴き始め、11月が最もにぎやか。成虫で越冬するので、冬でも暖かい夜には鳴き声が聞かれる。春も鳴き、6月頃まで生きるらしい。

場所 林縁や路傍の草むら、やぶの中にいる。

解説 卵から何日で親(成虫)になるのか(?) 鳴き声をめあてに懐中電灯でぶを探してみよう。近くに♀がいることが多い。

似た虫 クツワムシは県本土しかないはず。似た鳴き声の虫はほかにいない。



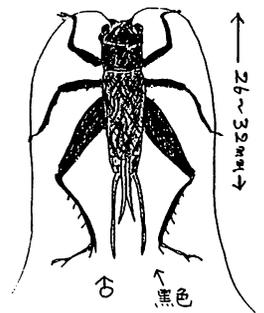
# 160 タイワンエンマコオロギ (コオロギ科)

時期 幼虫越冬、初夏と秋に成虫がいる。年に2回発生。 くわしい時期は?

場所 畑や草地に多い。

解説 屋久島以北ではエンマコオロギもいるから要注意、トカラ以南にはタイワンエンマのみ?

似た虫 エンマコオエロギ



せまい.....	目の上の白帯	.....広い
20.5~21mm.....	産卵管	.....19~22mm
卵(年1化).....	越冬態	.....幼虫(年2化)
コロコロリー、コロコロリー.....	鳴き声	.....リリリリッ、リリリッ(速く単調)

# 161 マツムシ (コオロギ科)

**時期** 8～10月。沖縄では12月までいるらしい。  
**場所** ススキ、チガヤなどの多い草地。  
**解説** 昼は地面近くにかくれており、夜は草の葉や茎にのぼって鳴く。卵で越冬し、春に孵化して夏～秋に成虫になる。  
**似た虫** いない。

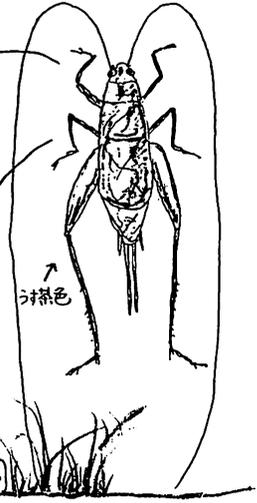
本州・四国・九州の鳴き声

チン・チロリン

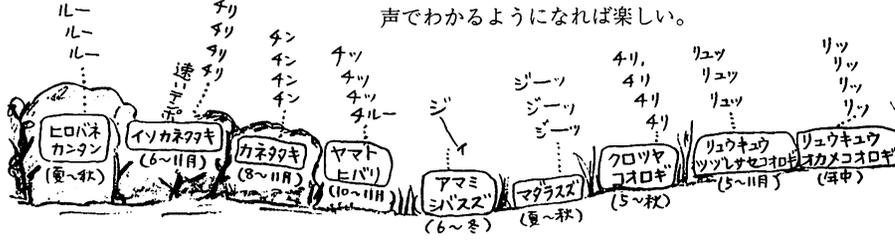
熊毛・奄美はどちらのタイプ?

チン・チン・チロリン

沖縄の鳴き声 (別名タイワンマツムシ)



奄美の虫のコンサート  
 声でわかるようになれば楽しい。

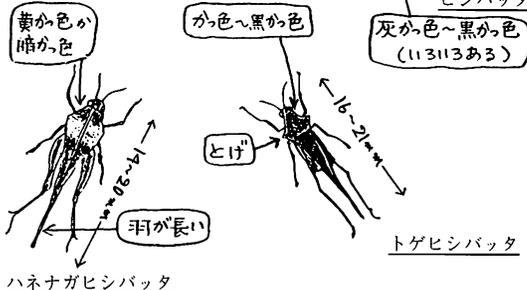
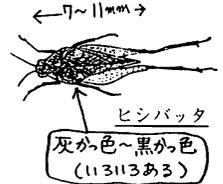


# 162 ヒシバツタ (ヒシバツタ科)

**時期** 夏～秋? (良く分からない)  
**場所** 裸地の多い低い草の生えた草地、荒地、あぜ道など。  
**解説** 体色はうす茶～こげ茶色で変化に富む。地面や枯れ草と同色でよく飛ぶ。  
**似た虫** トゲヒシバツタ: 湿地の草地にすみ成虫越冬。ハネナガヒシバツタ: 湿った草地、裸地にすむ。ヒラタヒシバツタ: 奄美大島以南にいる。ひとまわり大きくてごつい感じの異様なヒシバツタ。

ひしがた (体型が菱形のバツタ)

それぞれちがった環境にすみ分けしているはずだが... 君たちの好みはどこか?



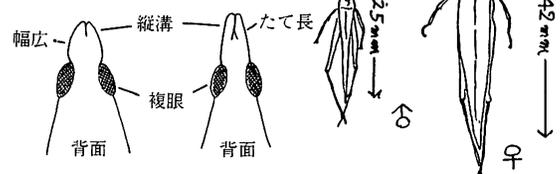
# 163 オンブバツタ (バツタ科)

**時期** 6～11月  
**場所** 畑や土手、家のまわりの草地、野菜やサツマイモなど柔らかい葉を好む。  
**解説** ♀にくらべて♂は小さい。運動は不活発で、ピョンと跳ぶ。  
**似た虫** アカハネオンブバツタ: 南西諸島以南にいる。後羽がピンク色なのでわかりやすいが、ふつう前羽の下にかくれているのでオンブバツタと区別しにくい。



体色は緑のものが多いが、茶色のもいる

頭部での見分け方



アカハネオンブバツタ♀ オンブバツタ♀

## 164 ショウリョウバッタ (バッタ科)

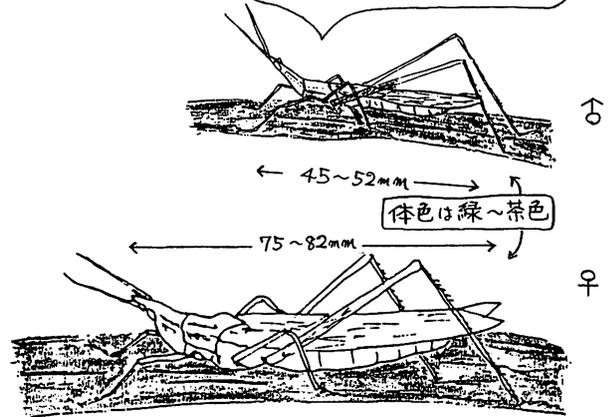
時期 7～11月

場所 川の堤防、畑のまわりなど、やや乾燥した草地。

解説 ♂は飛ぶ前に、前羽と後羽を打ち合わせて“キチ、キチ、キチ……”と音をだす。♀は長くて太い大きなバッタ。県本土では卵越冬であるが、奄美では冬でも幼虫が見られる。

似た虫 ショウリョウバッタモドキ：県本土ではやや湿った草地に多いが、どの島にもいるのか？（背すじがまっすぐなバッタ）

ショウリョウ(精霊)は盆の頃に墓地でよく見られるから…



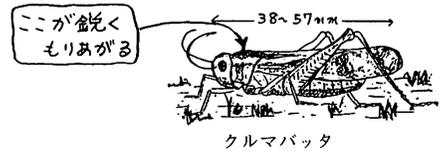
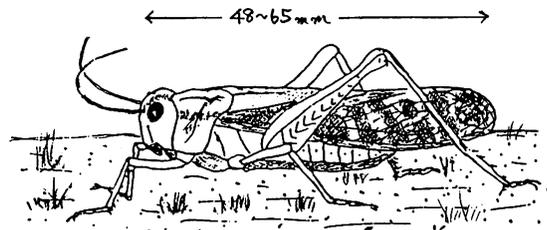
## 165 トノサマバッタ (バッタ科)

時期 6～11月に成虫が見られる。冬を越したものが春にもいるらしい。10～11月に最も多い。

場所 日当たりのよい草地、荒れ地にはたいてい住んでいる。低いイネ科の草地で、地面が見えているようなところに多い。

解説 敏感でよく飛ぶ。「理科」の本でおなじみの虫、後羽は透明で紋はない。

似た虫 クルマバッタ：後羽をひろげるとくるま状に見える黒帯がある。

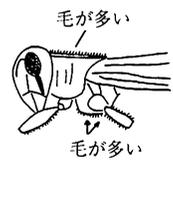
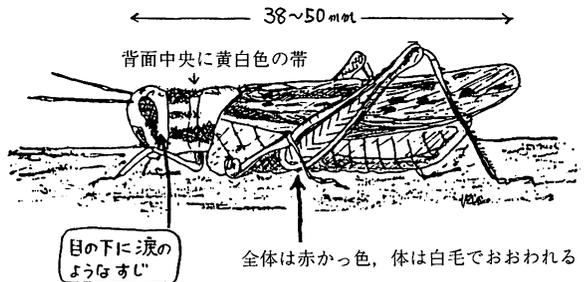


## 166 ツチイナゴ (バッタ科)

時期 9～10月に羽化して成虫で越冬、翌年の春を過ごして7月までいる。しかし、これはどこでも同じか？

場所 畑まわりの草地や人里の草地。イネ科植物よりも、クズを好んで食べる。南西諸島には台湾ツチイナゴもいるので、要注意。各島ごとの分布はどうなっている？

似た虫 タイワンツチイナゴ：体長50～70mm。体下面の長毛はまばら。全体的に毛深くない。畑（サトウキビ畑など）に多く、よく飛ぶ。県本土にはいない。



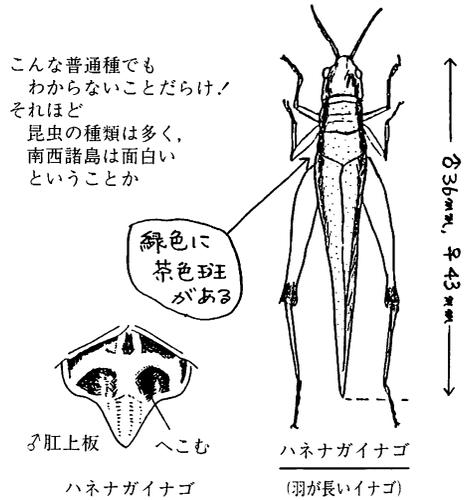
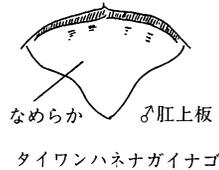
## 167 ハネナガイナゴ (バッタ科)

**時期** 5月(?)から11月。卵越冬(?)

**場所** 水田, 湿地の草原。

**解説** ススキ, イネ, サトウキビ(?)のような柔らかい大きなイネ科植物を好む傾向があるらしい。では主食は何だろう?

**似た虫** 台湾ハネナガイナゴ: シナイナゴの亜種で南西諸島に分布。サトウキビ畑に多いのは本種(?)。ハネナガイナゴとの区別は生殖器などを見ないとむずかしい。



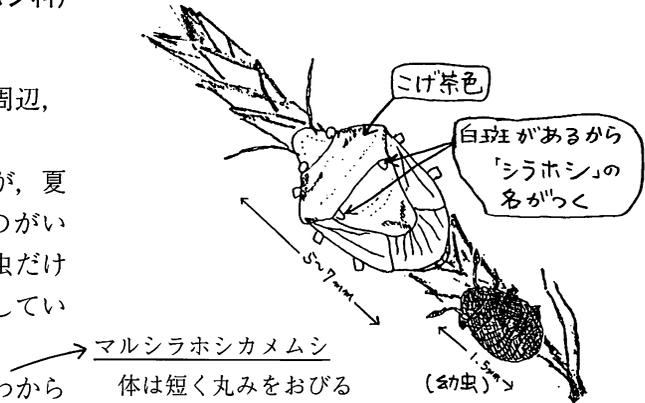
## 168 シラホシカメムシ (カメムシ科)

**時期** 成虫で越冬。夏~秋に多い。

**場所** イネ科植物の多い水田や畑の周辺, 休耕田, 荒地。

**解説** イネ科雑草の穂から汁を吸うが, 夏は水田に移ってイネから吸汁するものがある。キク科も好むらしい。目立たない虫だけど, 野生植物と栽培植物をうまく利用している。

**似た虫** 何種類かいるはずだがよくわからない。胸のもようや両肩の出っばりに注意。



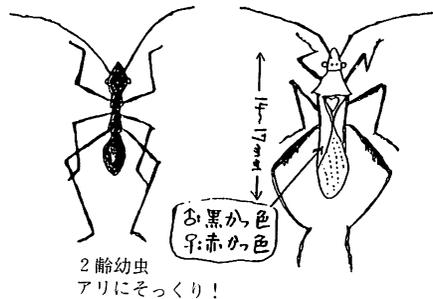
## 169 ホソヘリカメムシ (ヘリカメムシ科)

**時期** 夏~秋に多い。年2~3回発生(?)

**場所** アズキ, インゲン, ササゲなどマメ類の畑に多い。近くの草地にもいる。

**解説** 幼虫はアリに似ており, 成虫は飛ぶ姿がハチのように見える。刺さないけど臭い。

**似た虫** いない? 沖縄には数種の近似種(台湾ホソヘリカメムシなど)がいるらしいので, 奄美でも調査が必要。



~~~~~  
カメムシ類(方名:ふ)が臭いのは胸の下面に「臭腺」というにおいを出すところがあるから。  
~~~~~

## 170 アカギカメムシ (カメムシ科)

(別名：アカギキンカメムシ)

**時期** 7～10月

**場所** アカメガシワの葉に集団をつくることが多い。明るい林間や林縁などに見られる。

**解説** 7～10月に産卵(アカメガシワ葉上)、数十～百卵以上の卵塊を母が体の下にかくすように保護する。佐多岬、甌島でも採れたことがあるが、甌の島ほど多い。

**似た虫** いない。しいてあげればオオキンカメムシ。

(光沢が強く、黒斑が大きく美しい。)



## 171 アメンボ (アメンボ科)

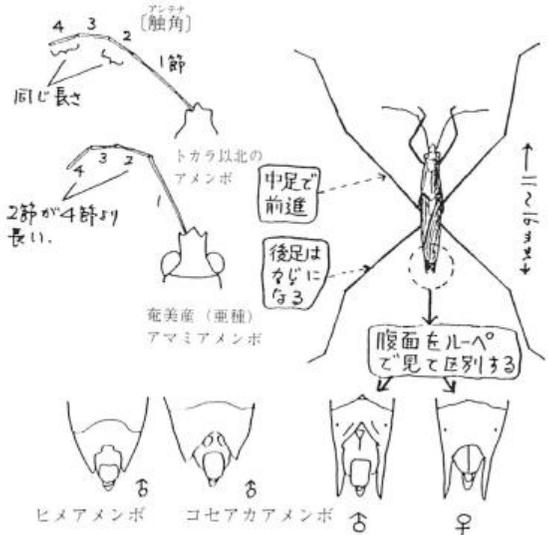
**時期** 冬には見ないが、春から秋までずっといる。

**場所** 流水(川)でも静水(池、水田)でも住んでいる。

**解説** 水面に浮かんでいる小虫、魚の死体など動物の汁を吸う。

**似た虫** コセアカアメンボ、ヒメアメンボ：ともに屋久島以北にいて、トカラ、奄美では未発見？

シミアメンボ：丸い体(5mm)に縞。溪流に多い。



## 172 クマゼミ (セミ科)

**時期** 7～9月。最盛期は7月中旬～8月中旬。

**場所** 人里の樹木、ホルトノキ、センダンなどに多い。標高何mまでいるか？

**解説** 午前中とくに8時～9時30分に盛んに鳴く。腹が真っ黒なものから広い白帯をもつものまで変異がある。南方ほど白帯型がふえる？

奄美諸島では、沖永良部島、与論島には多産するが、なぜか喜界島、奄美大島(加計呂麻島、請島、与路島を含む)、徳之島では確実な記録がない。本当にいないのか。いないのならどうして？

**似た虫** いない。



## 173 ニイニゼミ (セミ科)

**時期** 6～9月。8月後半には少なくなる。

**場所** 人里に多い。校庭のガジュマルでよく鳴いているが、なかなか見つからない。

**解説** リュウキュウマツにも多い。夜によく電燈に飛来する。

**似た虫** クロイワニイニ：奄美諸島では混生するので要注意。奄美大島ではホルトノキ、カラスザンショウのように好きな木が限られ、マツにはいなかった。ススキ類の枯れ茎にもよく産卵している。



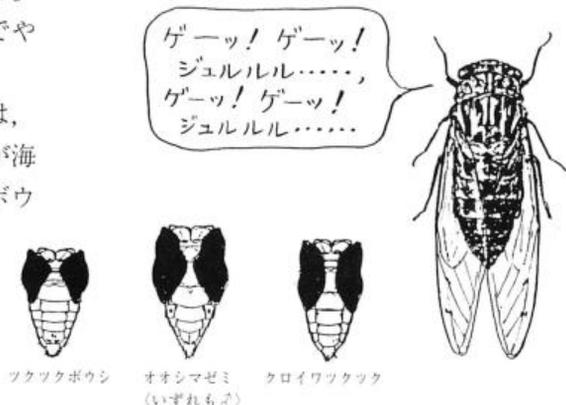
## 174 クロイワツクツク (セミ科)

**時期** 8月中旬～10月。晩夏から初秋のセミ。

**場所** 海岸付近から低山地のいろいろな木でやかましく鳴いている。与論島にはいない?!

**解説** ツクツクボウシのいる悪石島以北では、ツクツクボウシが山手に、クロイワツクツクが海岸べりにすみわけている。屋久島のツクツクボウシは鳴き声が少しちがう?

**似た虫** オオシマゼミ：奄美大島と徳之島の山地に住む。ひとまわり大きくて、鳴き声は「ジーワ、ジーワ……、カン、カン、カン……」。



## 175 キョウチクトウアブラムシ (アブラムシ科)

**時期** 春～秋に多い。卵越冬?

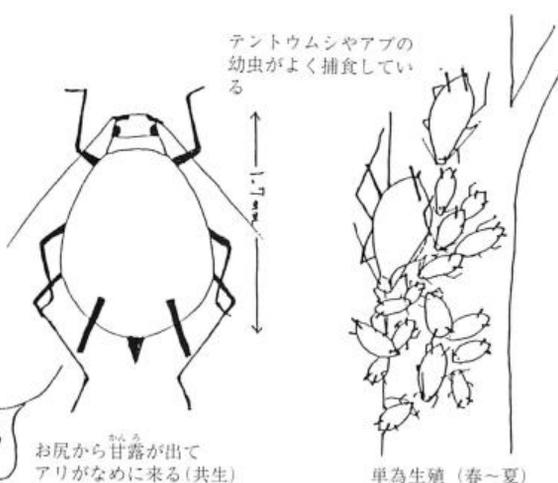
暖地では冬も成虫・幼虫がいるかも知れない。

**場所** キョウチクトウの若葉・若い茎にびっしりついている。トウワタなどガガイモ科につくのもこの虫。

**解説** 植物の種類によって、ついているアブラムシはちがうことが多い。大害虫のなかまもいるが、たまには虫眼鏡でじっくり眺めたい微小な虫たちの世界。

**似た虫** いない。

黄金色のからだ、黒できまった手・足・ひげ、黒くあとけの目……美しい!



## 176 イチモンジセセリ (セセリチョウ科)

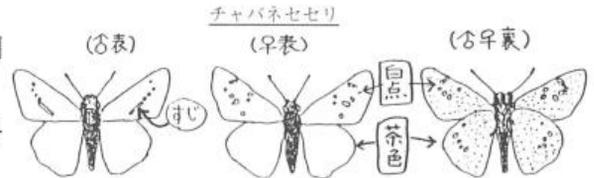
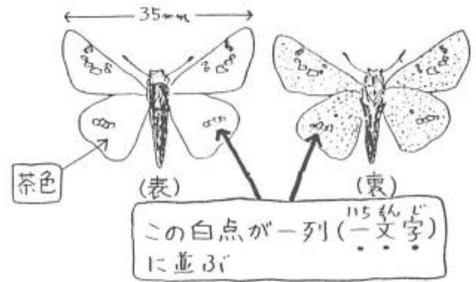
**時期** 5～11月、とくに8～10月に多い。  
11～12月には幼虫がたくさんいるのに、2～3月にはごく少ない。だから春の成虫も少ない。冬に何が起きているのか？

**場所** 水田、湿地のまわりから人里、堤防など、明るい環境を好む。

**解説** 幼虫はイネの害虫でもあるが、早期栽培ではどうだろうか。なぜ秋に多いのか。

**似た虫** チャバネセセリ：やはり秋に多い。いっしょに花に来ている。

ヒメイチモンジセセリ (奄美諸島), ユウレイセセリ (沖永良部島で記録あり) など。



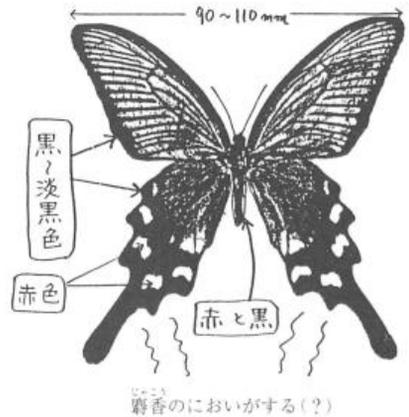
## 177 ジャコウアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 種子島・屋久島では4～9月。奄美では3～10月 (ただし、1～2月でも羽化するものがある)。

**場所** 海岸から山地まで、食草ウマノズクサ類が生えている林縁・路傍・伐採地などに住む。トカラには食草がないのでいない。

**解説** 地上1～2mのところをゆっくり飛んでいろいろな花を訪れることが多い。地面で吸水することはない。蛹で冬を越し、春には多いが、その後の経過はまだよく分からない。

**似た虫** クロアゲハ (No183)



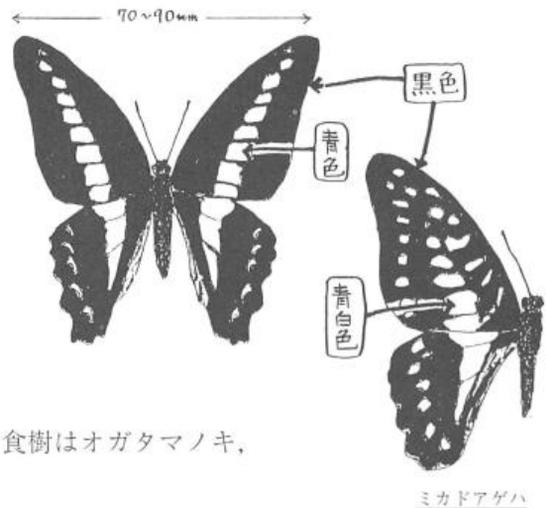
## 178 アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 3～10月。年に3～4回の発生らしい。

**場所** タブ・クスなど食樹クス科植物の生ずる森林、人里など広く生息する。

**解説** 花蜜を求めるほか、地面から吸水することも多い。卵は食樹の若葉に生まれ、幼虫も若い葉しか食べない。各島で年間を通してどの植物が食樹として利用されているか？ 発生回数といっしょに調べてみて！

**似た虫** ミカドアゲハ：とくに春に多い。食樹はオガタマノキ、タイサンボク。トカラにはいない？



## 179 アゲハチョウ (アゲハチョウ科)

(別名ナミアゲハ)

**時期** 3～11月。年に何回発生するのか不明。

**場所** 食樹ミカン類の多い人里，サンショウ類の若木が多い伐採地，林縁。

**解説** 理科の教科書ではおなじみだが，奄美ではあまり多くない。なぜだろう？ 人里よりカラスザンショウの多い山の方が好きなのか？ ミカン科の植物がみんな食樹になるのか？

**似た虫** キアゲハ：奄美では見られない。トカラでもたぶん見つからない？ 屋久島では海辺でハマボウフウ（セリ科）を食草にしているし，宮之浦岳の頂上にもいる。ニンジンにも幼虫がつく。



キアゲハ

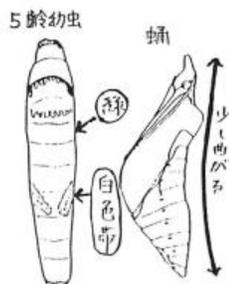
## 180 ナガサキアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 3～11月。年に3～4回発生か？

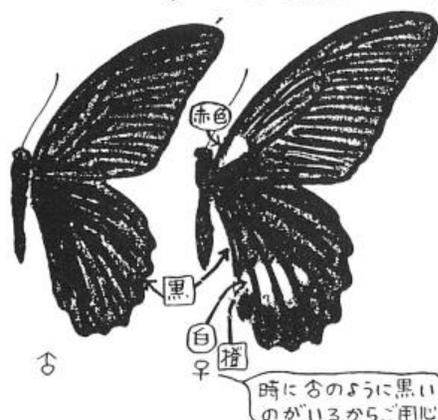
**場所** 人里のチョウ。ミカン類の少ない山地ではあまり見かけない。サンショウ類は食べないから。

**解説** 花の蜜は好きだが，地面からの吸水はあまり多くない。蛹越冬，でも正月頃まで幼虫がいるかも知れない？

**似た虫** 後羽の尾っぽ（突起）がない黒いアゲハは本種だけ。



←---110～130mm→



## 181 モンキアゲハ (アゲハチョウ科)

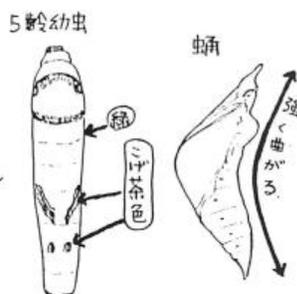
**時期** 3～10月。年に3～4回発生？

**場所** 人里にいてミカン類にも産卵するが，カラスザンショウ，ハマセンダン（ミカン科）を主な食樹として林縁に多い。

**解説** 山道のぬかるみでよく吸水している。

**似た虫** いない。

么虫は  
小さな木(2m以下)  
でさがすとよい。



←---110～140mm→

いつも紋つきを着たような  
優雅なアゲハ。  
山道にふさわしい。



## 182 シロオビアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 2月から11月にかけて数回発生をくり返すというが、正確には調べられていない。

**場所** 野性のサルカケミカンを主食樹にしているためか、この植物の多い与論島・沖永良部島・喜界島には多産する。奄美大島では少ない。トカラにもいるが土着北限は不明。熊本郡下では迷蝶。人里に多い。

**解説** 徳之島にも多いが、昔は少なかった？各島でサルカケミカンから栽培ミカンへ食樹の好みが変わりつつあるのか？

**似た虫** ベニモンアゲハ (沖縄から北上の可能性あり)



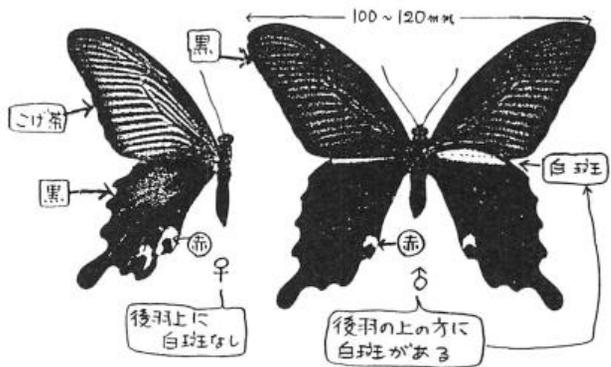
## 183 クロアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 3~11月。発生回数は不明。

**場所** 人里から山地の樹林にかけて広く生息している。

**解説** 平地ではシロオビアゲハやナガサキアゲハに負け、山地ではモンキアゲハに圧倒されているのか、数は少ない。どこに本種のホーム・グランドがあるのか？ミカン科を食樹とする。

**似た虫** ジャコウアゲハ (No177)



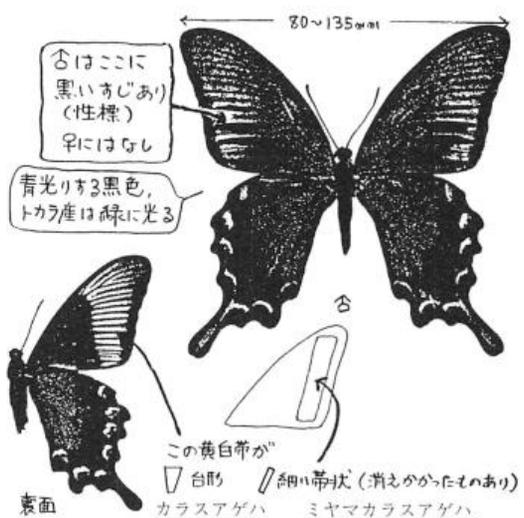
## 184 カラスアゲハ (アゲハチョウ科)

**時期** 3~11月。年3~4回の発生と推定。

**場所** 平地~山地の林縁・路傍, 人里に見られ, 場所によっては多い。

**解説** ハイビスカスの花蜜を求め, 路上に舞いおりて吸水する。食樹はミカン科のハマセンダンやカラスザンショウで, ときに栽培ミカンにもつく(?)。どれが主食か？

**似た虫** ミヤマカラスアゲハ: 種子島・屋久島の“青光りするアゲハ”はすべて本種で, トカラ・奄美のものはすべてカラスアゲハである。



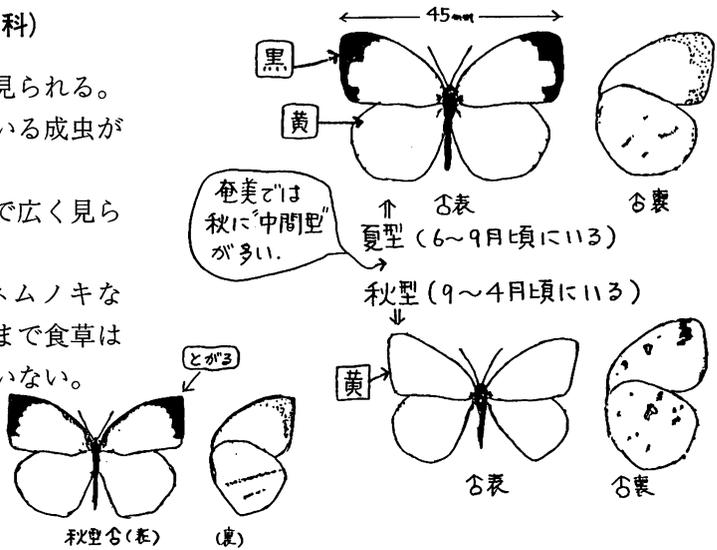
## 185 キチョウ (シロチョウ科)

**時期** ほとんど年間を通して見られる。ただし、冬は暖い日に越冬している成虫が飛び出す。

**場所** 人里から山地の林道まで広く見られる。

**解説** マメ科植物の樹木 (ネムノキなど) から草 (ヤハズソウなど) まで食草は多いが、くわしくは調べられていない。

**似た虫** ツマグロキチョウ：  
トカラ、奄美では迷蝶で秋に注意。屋久島以北では普通。



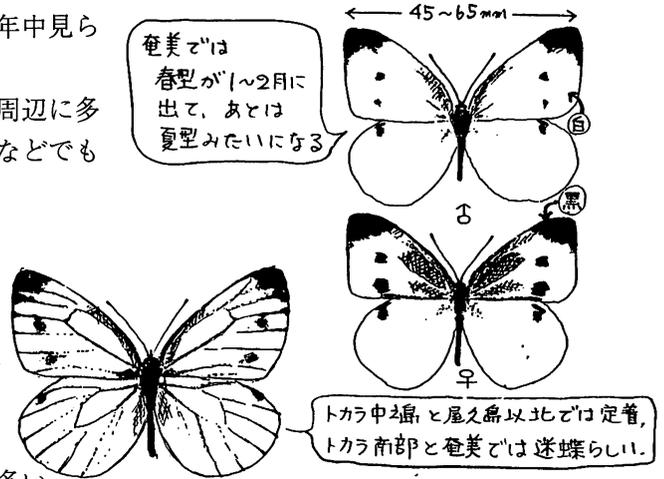
## 186 モンシロチョウ (シロチョウ科)

**時期** 12月～1月は少ないが、ほとんど年中見られる。発生回数は不明。

**場所** 食草アブラナ科の多い畑、湿地の周辺に多い。でも移動性も大きいので、山地や海辺などでも見かける。

**解説** キャベツを植えるとよく発生するが、どんな野性のアブラナ科を利用しているのだろうか。

**似た虫** スジグロシロチョウ →



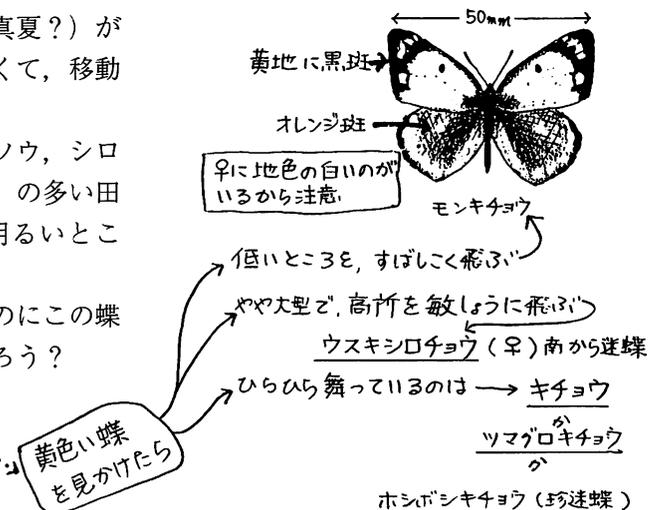
## 187 モンキチョウ (シロチョウ科)

**時期** ほとんど1年中見られるが、数の多い時期 (春?) と少ない時期 (真冬と真夏?) がある。同じ場所に定着する性質が弱くて、移動性が強いのか?

**場所** 食草のマメ科植物 (レンゲソウ、シロツメクサ; コメツブウマゴヤシなど) の多い田畑や海岸付近の草地、公園などの明るいところ。

**解説** シロツメクサは1年中あるのにこの蝶は住みついてくれない。どうしてだろう?

**似た虫** いないが……



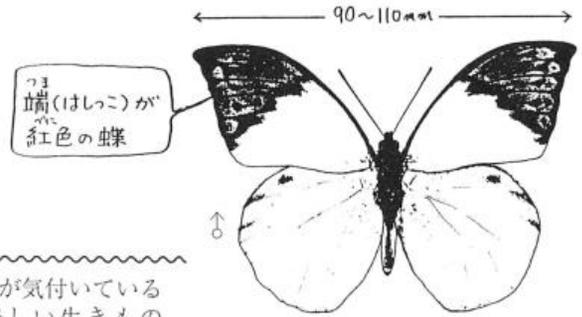
## 188 ツマベニチョウ (シロチョウ科)

**時期** 12月から2月にかけては少ないが、ほとんど年中見られる。しかし、発生回数はよく調べられていない。

**場所** 食樹ギョボクの生える川べりの樹林周辺が本来の発生地。近年はギョボクの植栽で人里にも多い。

**解説** 越冬態は蛹または幼虫。屋久島以北のものと、奄美産は色や形が少しちがうともいわれるが、さらに調査が必要。トカラ産はどうなる？

**似た虫** いない。



だれもが気付いているこの美しい生きものは、南の島々で、どのような生き方をしているのだろうか。一步ふみこんでその生活を調べてみよう。

ハイビスカス 求め舞い降りる  
ツマベニの緋の鮮やかに  
照り映えるかな (越山正三)

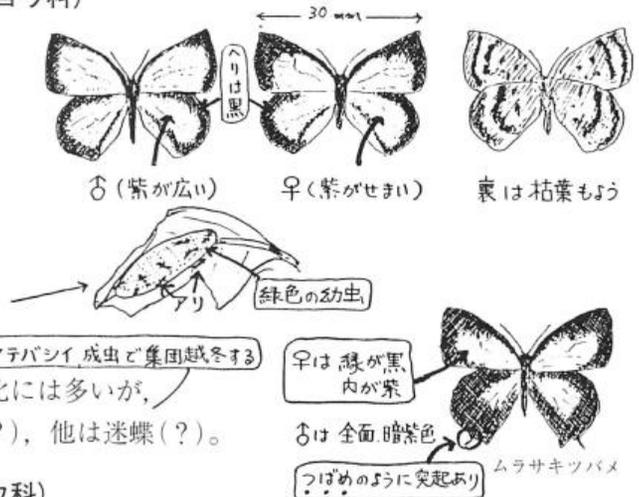
## 189 ムラサキシジミ (シジミチョウ科)

**時期** 1年中見られる。年に3~5回位の発生らしい。成虫で越冬する。

**場所** 食樹カシ類 (アラカシ、ウラジロガシなど) の新芽・新葉が伸びる頃、樹林へ行けば林間・林縁の低い枝で卵・幼虫が見つかる。

**解説** 幼虫は葉を曲げて巣を作り、アリが吸蜜に来ている。

**似た虫** ムラサキツバメ：屋久島以北には多いが、トカラ以南では奄美大島だけに土着(?)、他は迷蝶(?)。



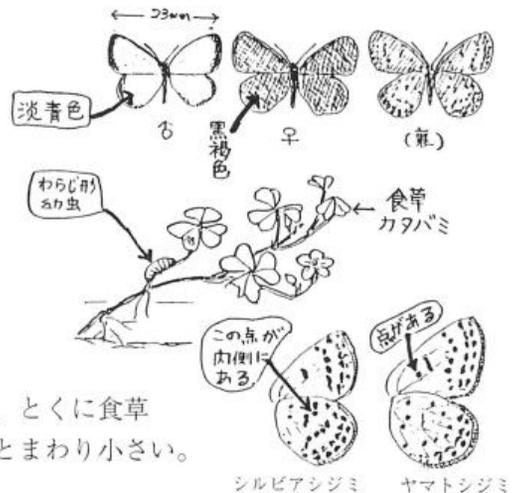
## 190 ヤマトシジミ (シジミチョウ科)

**時期** 真冬には少ないが、ほとんど1年中見られる。

**場所** 道ばた、庭先、畑、荒地など食草カタバミが生えているところには、たいてい住んでいる。

**解説** 食草を鉢植えにして窓の外に置けば♀が産卵にくる。小さな島にも住みついているから、見かけによらず移動性が大きいのだろう。

**似た虫** シルビアシジミ：日当たりのよい草地、とくに食草ヤハズソウ、コメツブウマゴヤシ群落に多い。ひとまわり小さい。



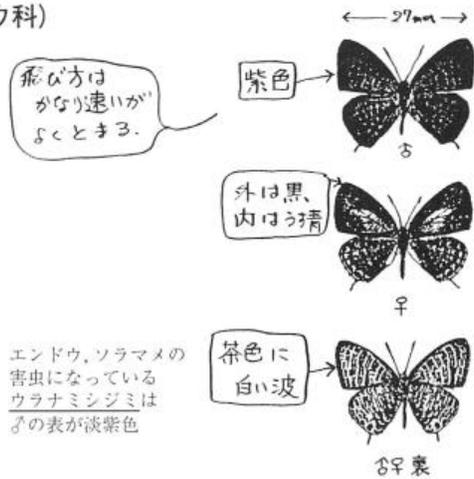
## 191 アマミウラナミシジミ (シジミチョウ科)

**時期** 春は少なく、夏から秋にかけて多くなる。幼虫や蛹で越冬するらしい。

**場所** 食樹モクダチバナ、シマイズセンリョウのまわりに多い。山地にもいるが平地の人里で普通に見かける。

**解説** 幼虫は若葉を食べる。6月頃にはつぼみや花を好んで食う。

**似た虫** ルリウラナミシジミ：♂の羽(表)が青紫色に光る。南方からの迷蝶でまれに飛来するが、クズのつぼみに産卵して大発生することがある。

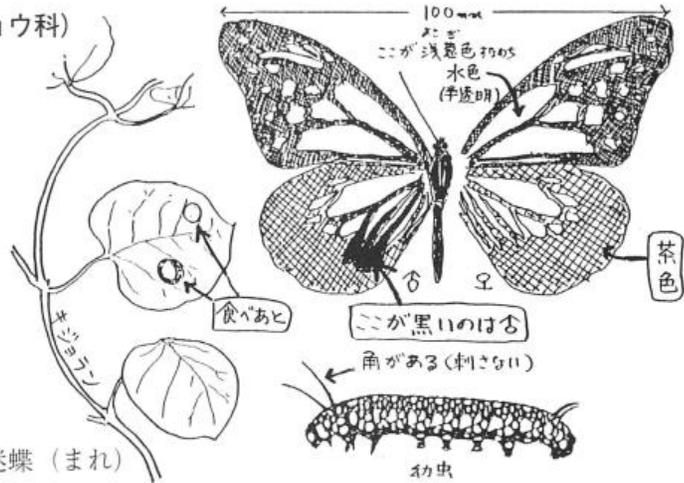


## 192 アサギマダラ (マダラチョウ科)

**時期** 低地では春と秋に多く、夏(7~9月)はほとんど見られない。奄美大島・屋久島の高地では夏にも見かける。

**場所** アザミ類、ヒヨドリバナ類など特定の花で吸蜜する傾向がある。食草ガガイモ科が海辺から山地にわたって生えているので、あらゆる環境に優雅な姿を見せる。

**似た虫** タイワンアサギマダラ：迷蝶(まれ)



## 193 リュウキュウアサギマダラ (マダラチョウ科)

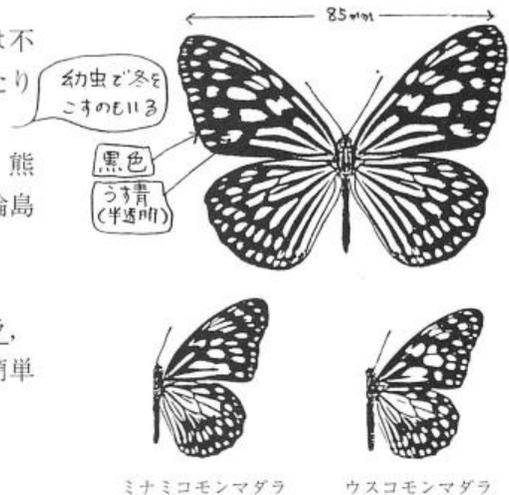
**時期** ほとんど1年中見かけるが、発生回数は不明。盛夏の日中(高温時)には少ない。冬は風当たりの弱い林間に多数集まって過ごす。

**場所** 森林や人里など各地で見かける。ただし、熊本郡では迷蝶、トカラ・喜界島・沖永良部島・与論島で土着種か否か不明。

**解説** 食草はガガイモ科のツルモウリンカ。

**似た虫** ウスコモンマダラ, ミナミコモンマダラ, コモンマダラ：いずれもまれな迷蝶。その判別は簡単ではない。少し変だなと思ったら図鑑を。

(または写真を博物館へ)



## 194 カバマダラ (マダラチョウ科)

**時期** 12月から2月にかけての低温期に見ることは少ないが、春から夏、秋に向けてしだいに多くなる。

**場所** 食草トウワタ (ガガイモ科) の生える人家のまわり、荒れ地、墓地など人里の蝶。

**解説** 冬は幼虫が主で温かい日には蛹化や羽化が見られる。種子島・屋久島では越冬するものは多くないらしい。

**似た虫** メスアカムラサキ：毎年かなり見られるが南方からの迷蝶。♀が赤い紫色 (♂) の蝶。



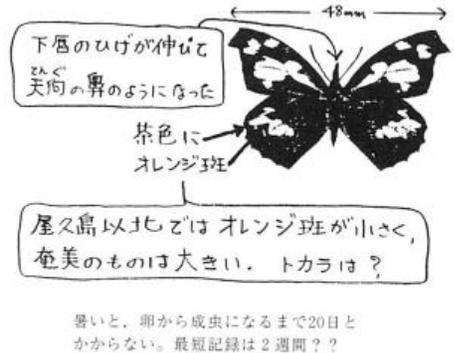
## 195 テングチョウ (テングチョウ科)

**時期** 1年中いるが、3～5月に多い。

**場所** 食樹クワノハエノキの新芽・若葉の多い頃、人里や平地の樹林。

**解説** 成虫で越冬し、春、新芽に産卵。幼虫が木を丸坊主にするほど発生し、蛹化、羽化した成虫はやがて休眠に入るのか姿を消す。そして翌春めざめて産卵する。しかし、夏の土用芽や台風後の新芽に卵・幼虫が見られ成虫が羽化するので経過は複雑怪奇となっていて、本当のことは不明である。

**似た虫** いない。



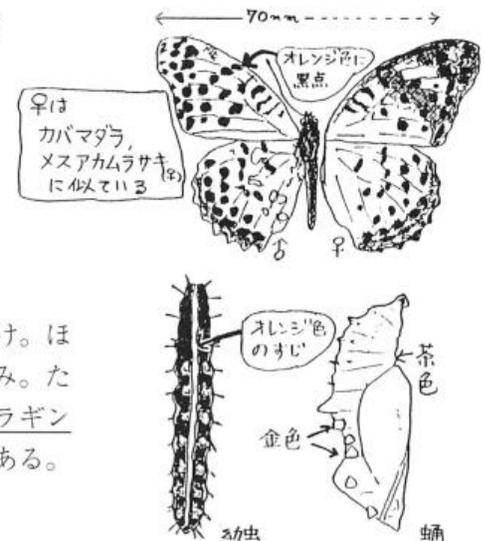
## 196 ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

**時期** 12月～2月には少ないが、ほとんど年中見られる。冬は幼虫か蛹が多いはず。

**場所** 人里から山地まで、明るい草地・花壇に多い。

**解説** 食草スマレ、パンジーを探すと幼虫が見つかる。野生のどのスマレを食べているか?

**似た虫** 甌島でウラギンスジヒョウモンがいるだけ。ほかの島では“ヒョウモン” (豹紋蝶) はツマグロのみ。ただし、種子島・屋久島ではメスグロヒョウモン、ウラギンヒョウモン、オオウラギンヒョウモンの古い記録がある。誤報か現在は絶滅したか?



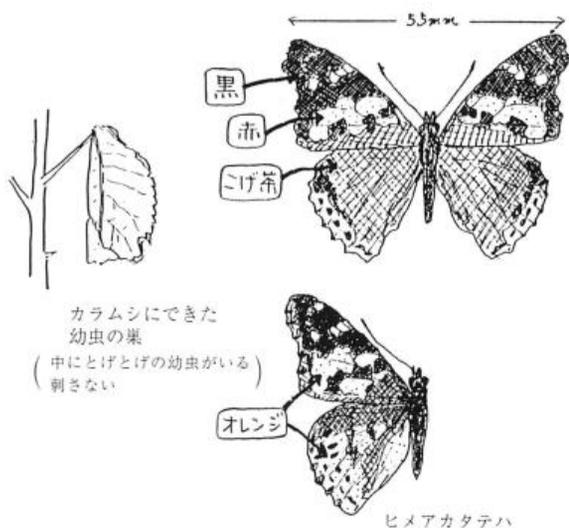
## 197 アカタテハ (タテハチョウ科)

**時期** 春と秋に多く、夏には少ない。  
冬でも幼虫・蛹のほか秋に羽化した(?)成虫がみられる。

**場所** 食草カラムシの生える田畑のまわり、荒地など人里に多い。

**解説** 成虫は飛び方が速くてつかまえてにくい。幼虫を探して飼ってみよう。夏に少ない原因もわかるかも知れない。

**似た虫** ヒメアカタテハ: 幼虫はヨモギに巣を作る。成虫は春には北へ移動し、秋には南下する可能性がある。



## 198 ルリタテハ (タテハチョウ科)

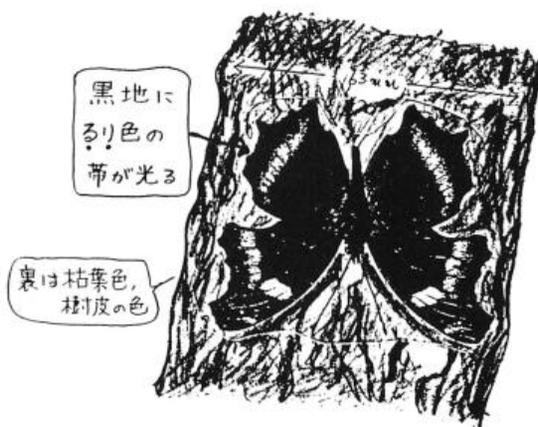
**時期** 年間を通して見られる。数回の発生?

**場所** 林道や畑道の路上によくとまっている。花には来ないが、樹液・腐果に好んで集まる。

**解説** 食草はサルトリイバラ類。成虫でも越冬するが、幼虫もがんばって生きぬく。

トカラ・奄美諸島産は、屋久島以北のものより りり色 (青色) 帯が幅広い。島ごとに少しずつ変わるか?

**似た虫** いない。



## 199 リュウキュウミスジ (タテハチョウ科)

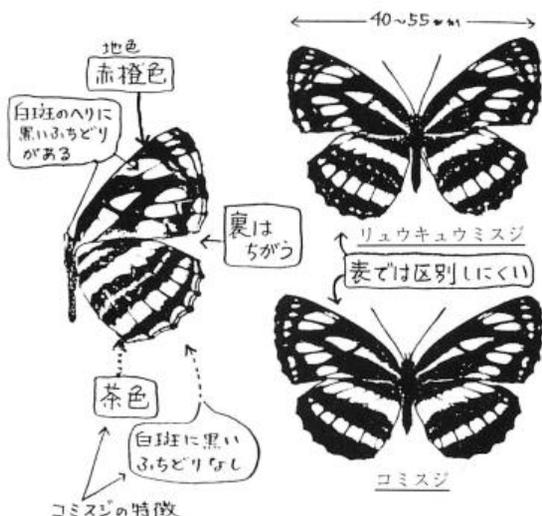
**時期** 真冬にはいないが、春から秋おそくまで数回の発生をくり返すものらしい。

**場所** 庭先から林道、林縁まで、日当たりのよい低木植えやその周辺。

**解説** 食草はヌスビトハギ、タイワンクスなどのマメ科とクワノハエノキ (ニレ科)。

**似た虫** 種子島・屋久島にいるのは コムスジ。三島村やトカラは両種とも未発見。奄美諸島産はリュウキュウミスジ。混生地はない。

両種の卵、幼虫、蛹をくわしく比較する必要がある。



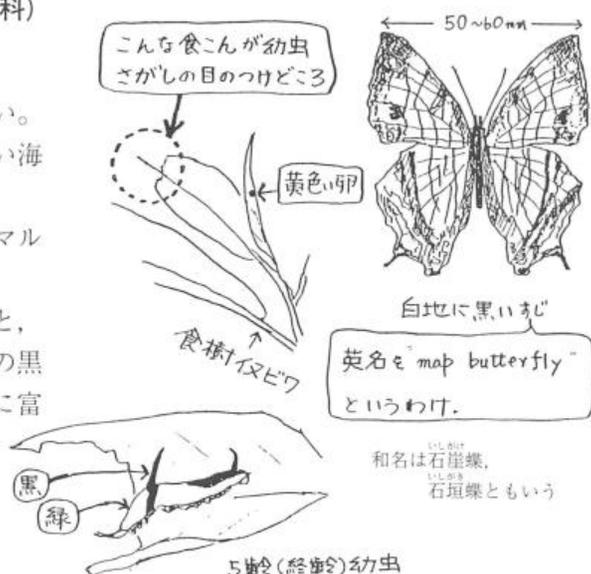
## 200 イシガケチョウ (タテハチョウ科)

**時期** ほとんど年間を通して見られる。  
成虫で越冬するが、幼虫もいるかも知れない。  
**場所** 溪流ぞいの山道、ガジュマルの多い海  
辺の道。

**解説** 食樹はクワ科のイヌビワ・ガジュマル  
など。若葉しか食べない。

屋久島以北のものは、トカラ以南のものど、  
成虫も少しちがうが、面白いのは5齢幼虫の黒  
斑。前者はほぼ一定なのに、後者は変化に富  
む。

**似た虫** いない。



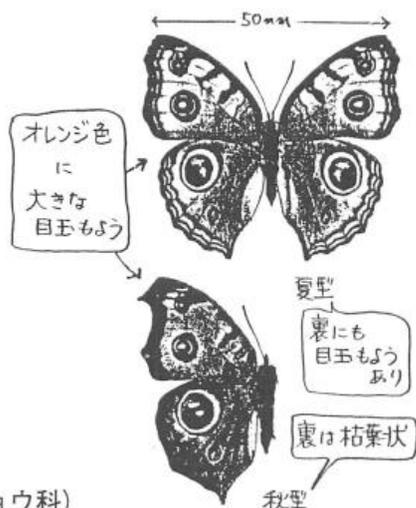
## 201 タテハモドキ (タテハチョウ科)

**時期** 年間を通して見られる。

**場所** 夏型は海辺、耕作地、人里など食草イワダレソ  
ウ、オギノツメ、スズメノトウガラシの多い明るい環境  
でよく見かけるが、9~10月から羽化する秋型は越冬地  
を求めて森林へ移るらしい。しかし、真冬の生活は不  
明。

**解説** 目玉のようにびっくりする鳥やトカゲがいるの  
かな？

**似た虫** アオタテハモドキ：青光りする地色に目玉も  
よう。小形。迷蝶（昔は徳之島などに住みついたことあ  
り）



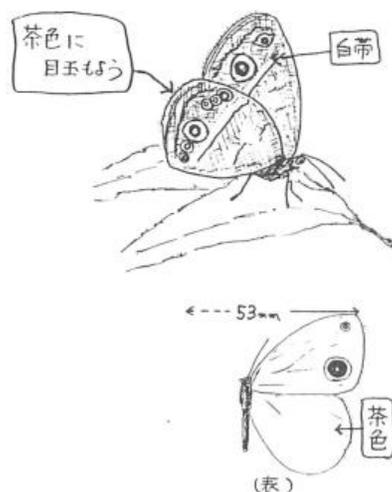
## 202 リュウキュウヒメジャノメ (ジャノメチョウ科)

**時期** 3~12月に5~6回の発生か？

**場所** 道ばたにススキの生えた林道、林縁に多く、明る  
い耕作地や草地にはあまり出て来ない。

**解説** 食草はススキ、チガヤなどのイネ科、奄美大島や  
徳之島には多いのに、ほかの島ではごくまれ（非土着？）  
か無記録。種子島・屋久島・口永良部島にいるのは県本土  
と同じヒメジャノメ。トカラには両種ともいない？

**似た虫** ヒメジャノメ：白帯がせまい。幼虫の頭の形は  
ずいぶんちがう。混生地はない。種子島・屋久島では小形  
の“銭蝶々”としてヒメウラナミジャノメがいるが、トカ  
ラ・奄美は未発見。（姫裏波蛇ノ目）



## 203 ウスイロコノマチョウ (ジャノメチョウ科)

**時期** 12月から2月の寒い時期にはあまり見かけないが、3~11月には多い。年3~4回程度の発生らしい。成虫越冬(秋型)

**場所** 夕方(早朝も?)、耕作地・林縁・人里で、ふわりふわりと飛んでいる。昼間は樹液や腐果で吸汁している。

**解説** 屋久島・種子島が土着の北限らしい。

**似た虫** クロコノマチョウ：屋久島が南限だったのに、1974年から奄美・沖縄でとれ始めた。

5齢幼虫 →



← クロコノマチョウ →

両者ともススキなどイネ科が食草。頭の形や背線で区別可能。



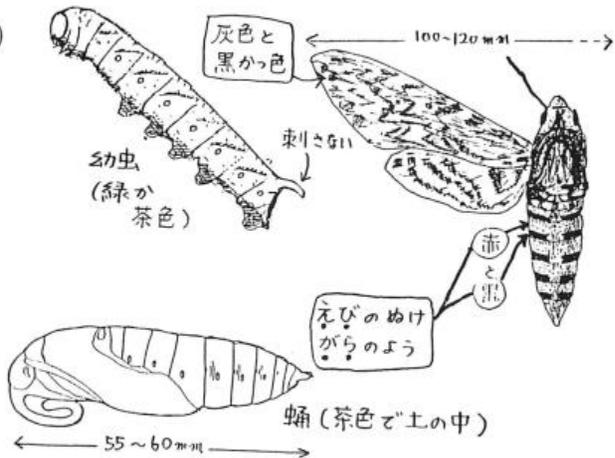
## 204 エビガラスズメ (スズメガ科)

**時期** 春から秋に年3~4回の発生?

**場所** 畑や人家のまわり。人里昆虫。

**解説** アサガオ、ヒルガオ、ヨルガオ(ユウガオ)、サツマイモ、アズキなどにつくイモムシ。夕方さかんに飛びまわり、花に来る。電燈にもよく飛来する。

**似た虫** コエビガラスズメ：屋久島以北では要注意。全体的に黒っぽいので見ればすぐに分かる。



## 205 オオスカシバ (スズメガ科)

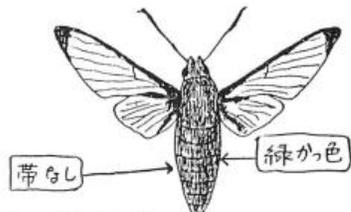
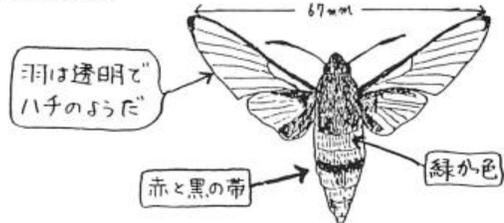
**時期** 県本土では6~9月に年2回の発生だが、南の島では?

**場所** 食樹クチナシの多い低山地の川べり、住宅地でよく見る。

**解説** 幼虫は葉を食べて、木を丸坊主にするイモムシ。

**似た虫** リュウキュウオオスカシバ：5~8月に出現するが、あまり多くない。幼虫はクチナシにつくので、両種の競争関係を調べると面白そう。

"大きな透かし羽"



リュウキュウオオスカシバ

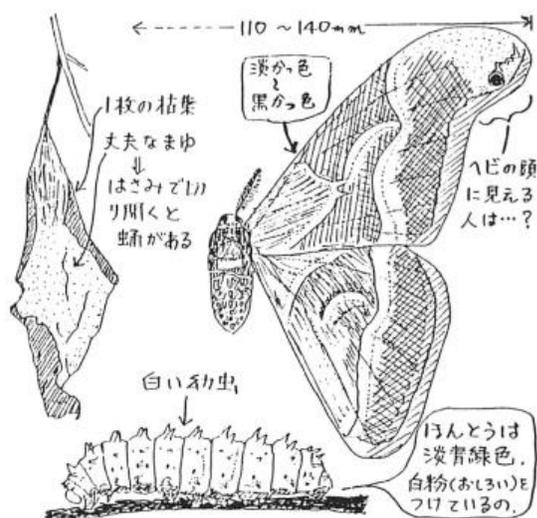
## 206 シンジュサン (ヤマユガ科)

**時期** 5～6月, 8～9月の年2回発生。蛹で越冬。県本土と同じ経過といわれるが, ほんとかな?

**場所** 人里～低山地。

**解説** 幼虫がシンジュを食べる<sup>(さん)</sup>蚕。クログネモチ, クスノキ, ナンキンハゼ, ハマセンダンなど多くの樹木につく。成虫の口は退化していて餌は吸わない。だから幼虫時代に大食漢なのか。

**似た虫** ヨナグニサン: 本県にはいない。  
(与那国島の蚕)



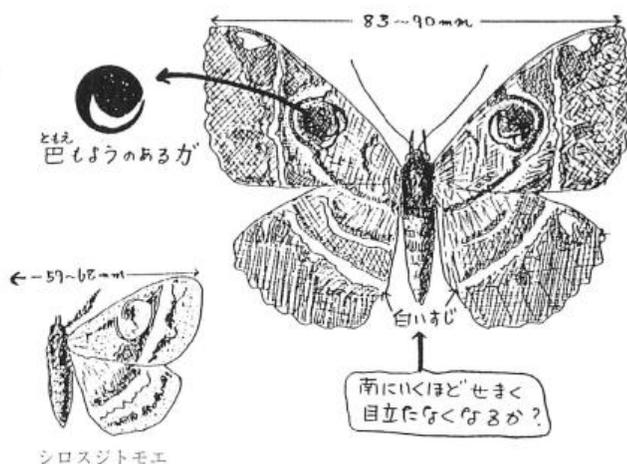
## 207 オオトモエ (ヤガ科)

**時期** 4～9月に2回発生, 蛹越冬。3回発生のところはないか?

**場所** うす暗い山道や森林の中を歩くと, 足元からフワ, フワと飛び出して, びっくりする。

**解説** 幼虫はサルトリイバラ類を食べる。

**似た虫** いない。屋久島にはシロスジトモエがいるが, 小さいですぐわかる。



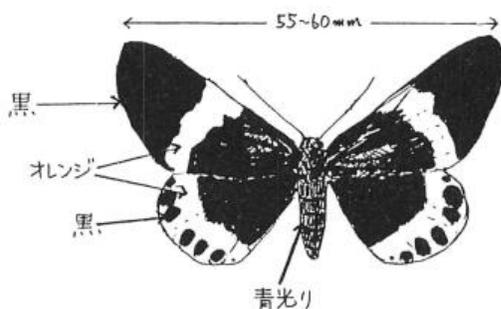
## 208 キオビエダシャク (シャクガ科)

**時期** 3～11月に成虫を見る。年数回発生で越冬態は蛹か?

**場所** 食樹イヌマキのまわりに多い。

**解説** 昼間さかんに飛びまわる。幼虫はシャクトリ虫で, 葉を食い荒す。県本土では昭和27年～31年に大発生し, その後も時に発見されるが定着していない。熊毛郡下も住みついているかどうか? 徳之島・沖永良部島・与論島からは未記録?

**似た虫** いない。



◎同じくらいの大きさで昼行性のガは  
サツマニシキ  
オキナワリチラス  
クロツバメ

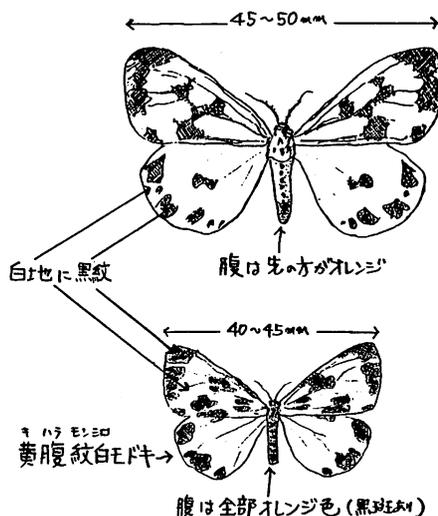
## 209 モンシロモドキ (ヒトリガ科)

**時期** 春～秋によく見かける。発生回数，越冬態は不明。

**場所** 人家周辺から山地の林道，伐採地などに広く見られる。

**解説** 昼間にふらふら飛んでいるが，移動性は大きいものらしい。種子島ではキク科のスイゼンジンに幼虫が大発生する。キク科を中心に食草をもっと調べる必要がある。

**似た虫** キハラモンシロモドキ：南方からの迷ガ（偶産ガ）かも知れない。



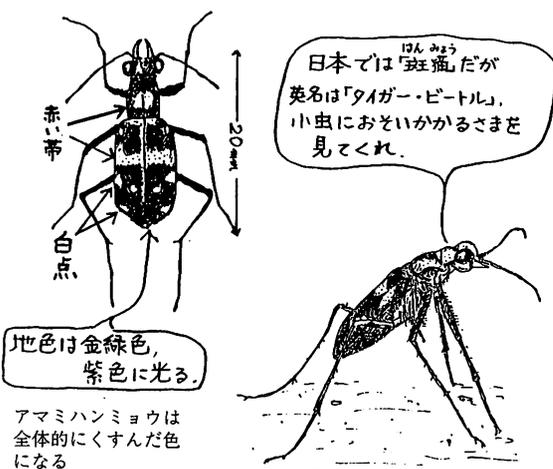
## 210 ハンミョウ (ハンミョウ科)

**時期** 4～10月

**場所** 少し湿った荒地，路上に多い。

**解説** 地面におりてすばしこく走る。人が近づくと道を先へ先へと案内するように飛ぶので「みちおしえ」の名がある。屋久島以北と沖縄本島（亜種オキナワハンミョウ）に分布する。

**似た虫** アマミハンミョウ：奄美大島と徳之島の特産。木かげのある湿った地面，川べり，山道に多い。白と黒のコハンミョウは各島に見られる。



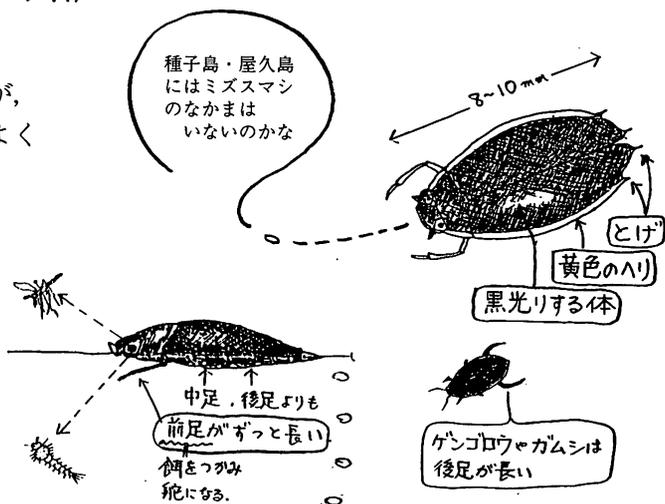
## 211 オオミズスマシ (ミズスマシ科)

**時期** 1年中いるらしい？

**場所** 流水域（小川）には少ないが，止水域（池沼，湿地の水溜り）にはよく見られる。

**解説** 水面をくるくる泳ぎまわり，ボウフラや水面に落ちた小虫を食べる。目は空中と水中を同時に見ることができる。

**似た虫** リュウキュウヒメミズスマシ：体長4～5mmで黄色のへりがない。



## 212 ガムシ (ガムシ科)

**時期** 1年中? 春～夏には確かにいるが、秋～冬は?

**場所** 池沼にすむ。

**解説** 魚すくいの際に網に入る。夜、燈火にもよく飛んでくる。離島では屋久島にしかいないか? 大型種。

**似た虫** コガタガムシ: 体長23～28mm。腹に細毛がある。これは各島にいるはず。中型種。  
ヒメガムシ: 体長9～11mm。小型種。



## 213 リュウキュウノコギリクワガタ (クワガタムシ科)

(別名: アマミノコギリクワガタ)

**時期** 5～9月

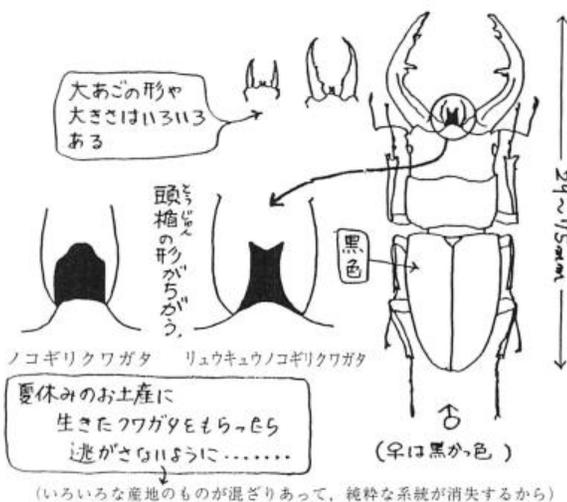
**場所** シイ・タブなどの樹液。

**解説** トカラ列島口之島以南に分布。トカラには美しい黄かっ色のものも見られ、沖永良部産は赤かっ色となるなど、島により多少変異がある。成虫で越冬することはない。

**似た虫** ノコギリクワガタ: 県本土から種子島、屋久島にいる。

アマミヤマクワガタ: 奄美大島特産の珍種。7～9月。

アマミシカクワガタ: 奄美大島、徳之島のみ。6～9月。



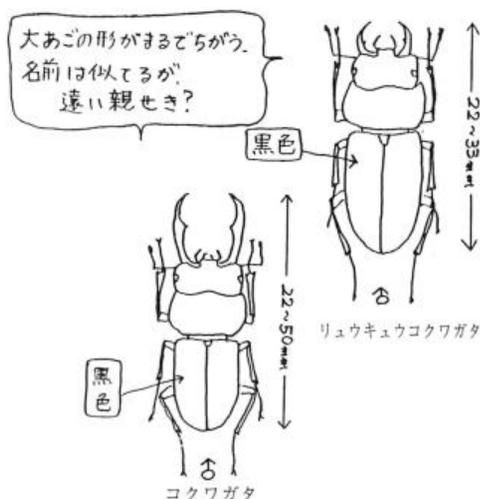
## 214 リュウキュウコクワガタ (クワガタムシ科)

**時期** 6～9月。秋に羽化した成虫は朽木の中で越冬する。また、幼虫で越冬しているものも多い。

**場所** 朽木のある山地樹林にすむが、人里の近くにもいる。ただし、県内では奄美大島と徳之島だけにしかない。

**解説** シイの樹液を好み、夜は燈火にも飛来する。

**似た虫** コクワガタ: 県本土から種子島、屋久島、トカラ中之島、甌島に分布。大あごの形で区別できる。ただし、変異もある。



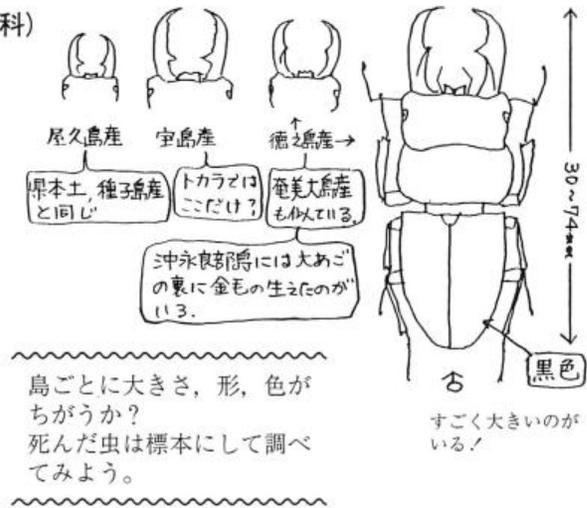
## 215 ヒラタクワガタ (クワガタムシ科)

**時期** 5～10月。成虫で越冬するものもいる。

**場所** 山地のほか、人里付近にも多い。

**解説** 朽木や樹皮にもぐるので、体が平く、短足で、目が“奥目”（幹の表面で生活するノコギリクワガタとくらべてみよう）になっている。樹液にくる。

**似た虫** スジブトヒラタクワガタ：羽に縦すじがあり、光沢がない。奄美大島と徳之島にいる。



## 216 アオドウガネ (コガネムシ科)

**時期** 夏 (6～8月?)

**場所** 森林、樹木の多い人里。

**解説** いろいろな草木の葉を食べる。その種類を調べてみよう。夜間よく燈火に飛来する。

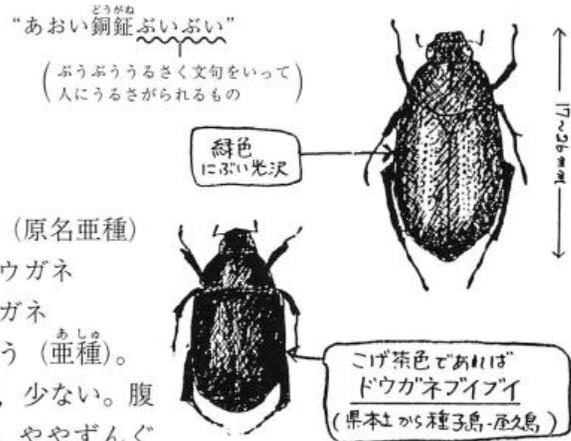
九州～中之島 (トカラ) 産：アオドウガネ (原名亜種)

宝島 (トカラ) ～徳之島産：アマミアオドウガネ

沖永良部島・与論島産：オキナワアオドウガネ

同じ種だが産地によって形・色が少しちがう (亜種)。

**似た虫** オオシマドウガネ：奄美大島以南、少ない。腹の両側に縦条あり。羽のへりが黄色っぽい。ややずんぐり。



## 217 オキナワシロスジコガネ (コガネムシ科)

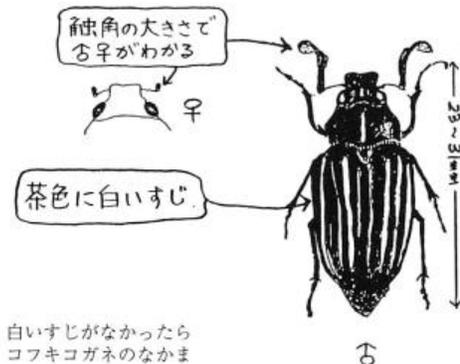
**時期** 5～7月

**場所** 松林にすむ。

**解説** 燈火にもよく飛来する。

トカラでは宝島 (今のところ分布北限) しか記録がなく、奄美では喜界島が未記録?

**似た虫** シロスジコガネ：種子島・屋久島ではとれないのだろうか? 県本土には普通。ひとまわり大きくて (24～32mm)、白いすじが太くはっきりしている。オキナワシロスジコガネといっしょに住んでいるところはない。



## 218 リュウキュウツヤハナムグリ (コガネムシ科)

時期 5～8月

場所 樹液や熟果、腐果に集まる。

解説 つや光りしているのは共通だが、形・色・斑紋に変異が

ツヤハナムグリ属の各種	九種屋口	トカラ	喜奄	沖与	沖繩
	州子久永	中悪宝	界大	徳永論	
ムラサキツヤハナムグリ	○ ○				
リュウキュウオオハナムグリ			○ ○		○
リュウキュウツヤハナムグリ	● ? ? ?	● ● ● ●	● ● ● ● ● ?	●	●
シロテンハナムグリ	○ ? ○	○ ○ ○			○
イシガキシロテンハナムグリ			○ ? ? ○ ○		○
キュウトアオハナムグリ	○ ? ○				
オオシマアオハナムグリ		○ ○ ? ?	? ○ ○ ○ ?		○

「原色日本甲虫図鑑」(Ⅱ)(1985, 保育者)より改変。?: いるはずの島

多い。似た虫もたくさんいて区別はむづかしい。



緑色～銅色で無紋が普通。ただし、中ノ島産は白斑(まじら)あり。

変異は島ごとに大体一定している。たくさん並べて虫の世界の多様さを知ってほしいです。

## 219 タمامシ (タمامシ科)

(別名: ヤマトタمامシ)

時期 7～8月

場所 クワノハエノキの周辺に多い。

人里でも見かける。サクラにもつく。

解説 成虫は何も食べず、飼育はむづかしい。奄美大島以南は亜種(オオシマルリタمامシ)になる。トカラにはいない?

似た虫 ウバタمامシ (No220) ?

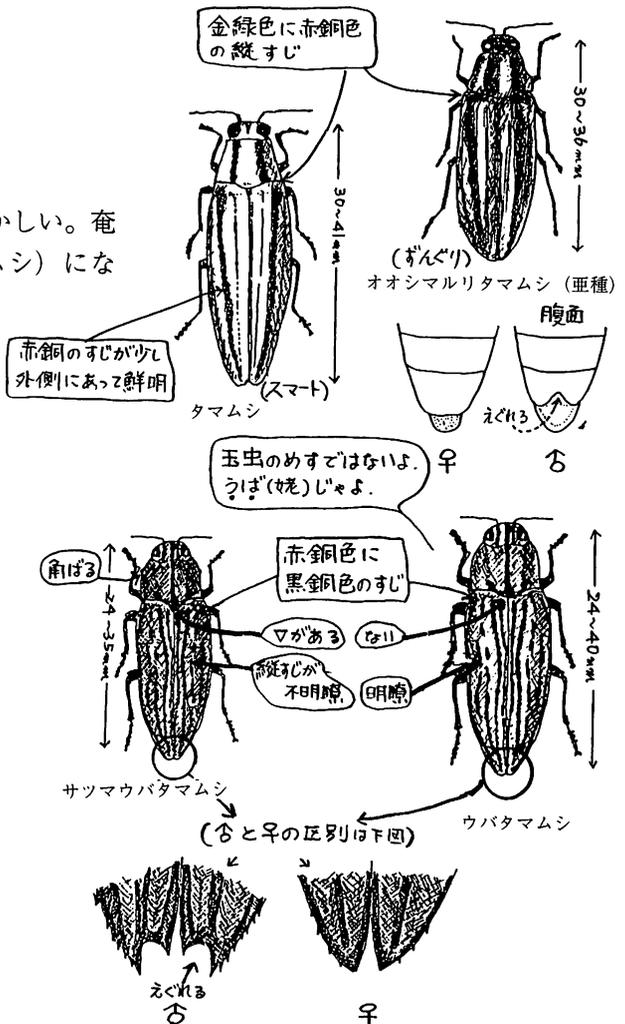
## 220 ウバタمامシ (タمامシ科)

時期 6～8月に多いが、成虫で越冬したものが春にも見られる。

場所 松林。新しく伐採されたマツ、枯死したマツの幹をさがす。

解説 幼虫は枯れたマツの材を食べ、2～3年後、樹皮下で蛹化する。奄美諸島産は美しい緑色をおびるアオウバタمامシ(亜種)になる。宝島産も別亜種。

似た虫 サツマウバタمامシ: やはり松類につく。これも島ごとの変異(亜種)が多い。



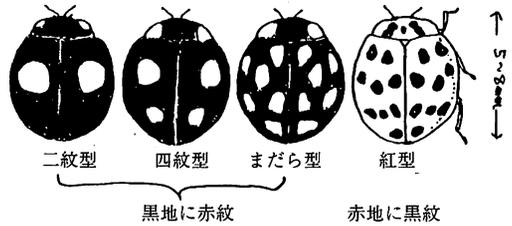
## 221 クリサキテントウ (テントウムシ科)

**時期** 1年中見られる。年数回発生し、冬は樹皮や石のすき間などに集まって越冬。

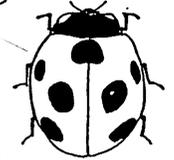
**場所** 畑や荒地で、餌になるアブラムシ類の多いところ。

**解説** 成虫も幼虫もアブラムシ類を食べる。成虫の斑紋には変異がある。これまで全県下にいるとされていたテントウムシ(ナミテントウ)は、研究の結果、県本土だけにおり、離島産は別種クリサキテントウとなった。ただし、クリサキテントウは県本土にもいる。

**似た虫** ナミテントウ：離島にはいない。きわめてよく似ており、成虫による区別は困難。



幼虫 (アブラムシを食べる)



ナミホシテントウ

両種の成虫では区別できぬが、交配してもうまく子孫がとれない!

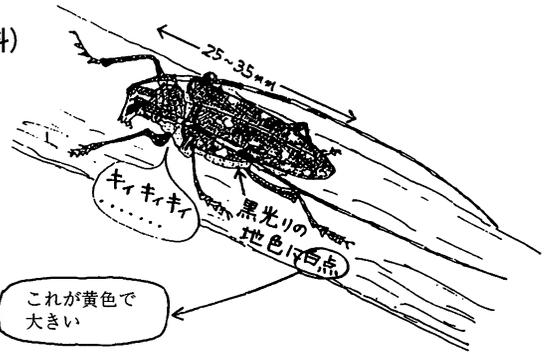
## 222 ゴマダラカミキリ (カミキリムシ科)

**時期** 6~8月

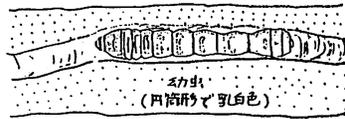
**場所** 人里から低山地。

**解説** ミカン、センダン、アカメガシワなどの木に飛来し、幹をかじって皮下に産卵する。幼虫は幹の中を掘り進む“鉄砲虫”。ミカンの害虫ではあるが、本県産カミキリムシ類300種の代表。よろしく。

**似た虫** オオシマゴマダラカミキリ：奄美大島・徳之島にはこれも混じる。



これが黄色で大きい



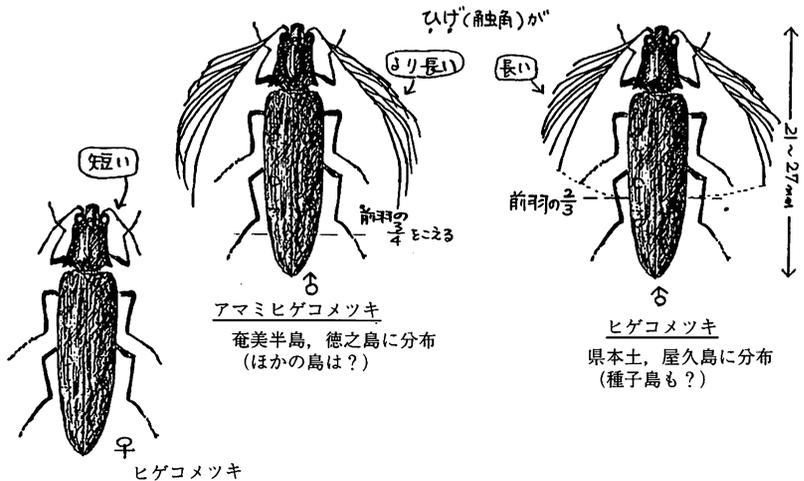
## 223 アマミヒゲコメツキ (コメツキムシ科)

**時期** 夏だけ?

**場所** 山地、樹林。

**解説** 夜、電燈にも飛来する。気をつけていると樹葉上などで割に見つかる。

**似た虫** これほど長くてはでな触角をもつ“米<sup>こめ</sup>搗き虫”は他にいない。



## 224 クロウリハムシ (ハムシ科)

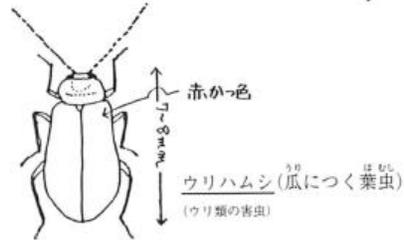
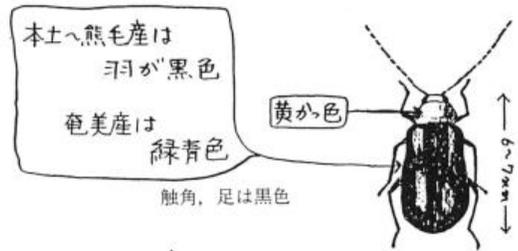
**時期** 1年中見られる。

**場所** 人里から低山地，畑。

**解説** カラスウリなどのウリ類につく\*。

卵は土中に産み，幼虫は土中でウリ類などの根を食べている。

**似た虫** ヒメクロウリハムシ：屋久島以南にいるが，触角や足が赤かっ色。ウリ類につく。  
ルリバナウリハムシ：大型（7.5～9.0mm）で，足はふとももが黄かっ色で他は黒色。奄美諸島。  
 ※エノキ，イタドリなどにもつくことが報告されている。



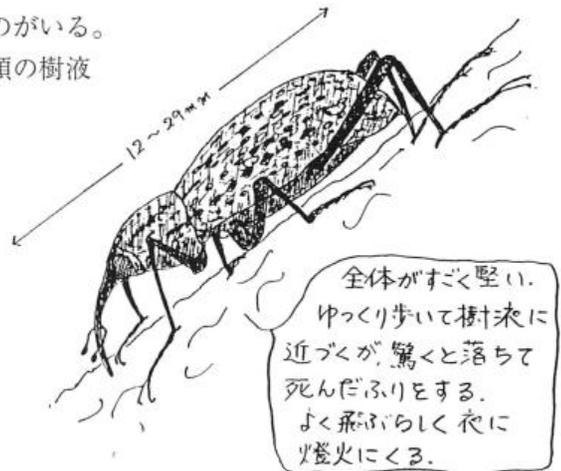
## 225 オオゾウムシ (オサゾウムシ科)

**時期** 1年中。成虫で1～2年も生きるものがある。

**場所** クワガタムシなどといっしょにカシ類の樹液に來ている。

**解説** 幼虫はマツやカシ類などの枯れ木に潜入する。体は灰かっ色でおおわれているが，1～2年生きたものは黒光りしている。

**似た虫** 本県にはこんなに大きな“象鼻虫”はいない。沖縄県にはヤシオオオサゾウムシというジャンボ（体長22～35mm）がいる。



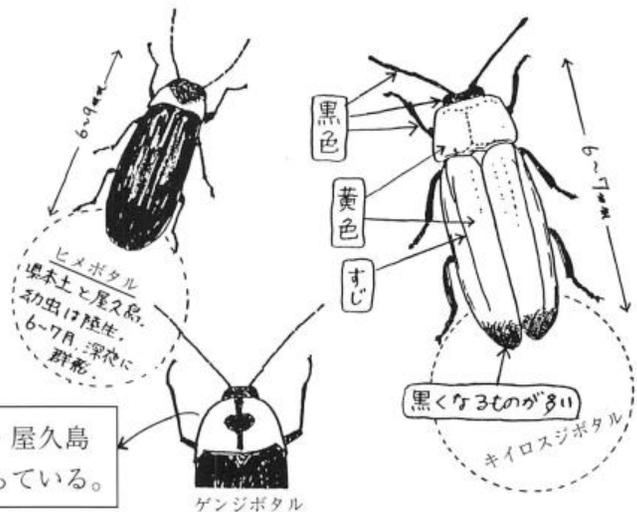
## 226 キイロスジボタル (ホタル科)

**時期** 6～7月

**場所** 川べりや森林の周辺を飛んでいる。トカラの口之島や中之島，奄美諸島に分布。幼虫は不明（陸生？）。体は小さいがよく光る。

**似た虫** ただし，沖永良部島には胸だけ黄色で他は黒いオキナワスジボタルを産する。

県本土にいるゲンジボタルは種子島・屋久島で，ヘイケボタルは種子島で見つかった。



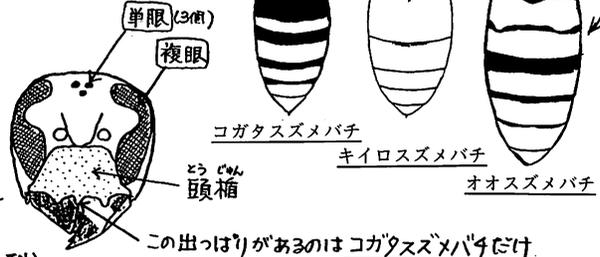
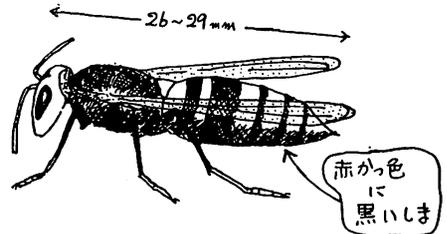
## 227 コガタスズメバチ (スズメバチ科)

**時期** 1年中いるが、7～9月が多い。

**場所** 人里から山地にわたる。樹液や花に来る。

**解説** 朽木などで越冬した1匹の女王が4～5月から巣造りを始め、夏から秋に数が増える。幼虫の餌はアブ・ハエ・ハチなどいろいろな昆虫。巣は低木の枝、人家の軒先などにつくる。

**似た虫** ヒメスズメバチ：腹が細長く、先が黒い。スズメバチは 顔でわかる



## 228 キアシナガバチ (スズメバチ科)

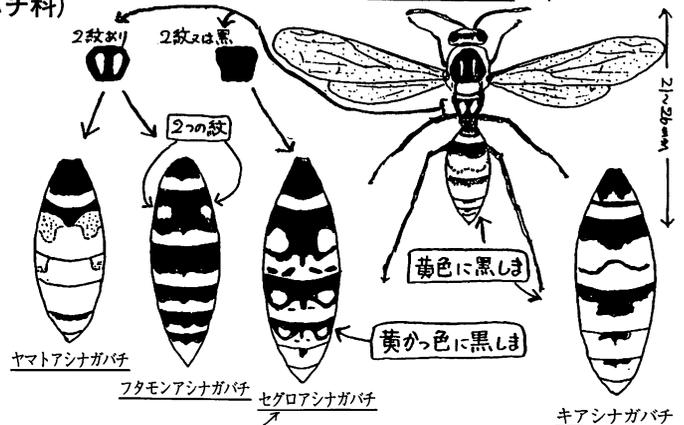
**時期** ♀ (女王) が越冬し、夏は数が増える。

**場所** 山地～人里。

**解説** 餌になるアオムシ類の多い畑や林などの近くに巣を造る。巣は植物繊維で造り、1年で使い捨てる。

**似た虫** ゼグロアシナガバチ：腹の紋には変異があるので、図のように背が黒い点にも注意。触角の2～3節上面が…→(黄かっ色)…(黒～黒かっ色)

||  
(前伸腹節)



## 229 オキナワチビアシナガバチ (スズメバチ科)

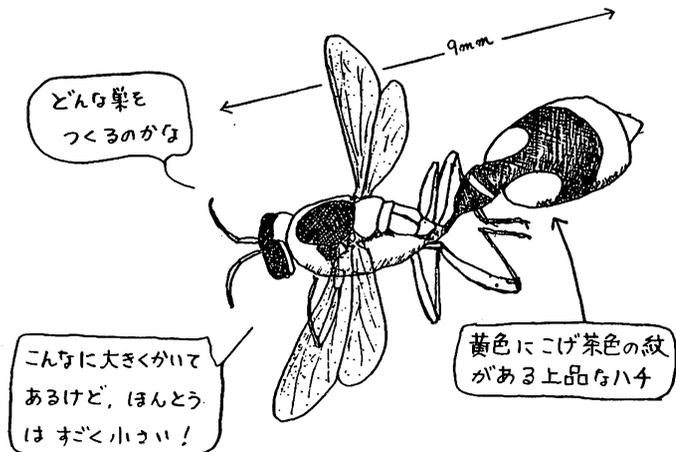
(別名ヒメアシナガバチ)

**時期** 1年中いるか?

**場所** 人里やサトウキビ畑のまわり。

**解説** 図は大きいですが、実物は1センチたらずのミニサイズ。熱帯系のハチで、今のところ奄美大島、喜界島が北限。トカラにはいないか?

**似た虫** いないはず。



## 230 キイロハラナガツチバチ (ツチバチ科)

時期 6～12月

場所 市街地の植え込みのまわり、公園などから山地の草地、耕作地の周辺など。

解説 “黄色腹長土蜂”。♀は地面すれすれに飛びまわり、コガネムシ類の幼虫を感知すると地中にもぐってひと刺し、まひした幼虫に産卵するらしい。(まだ、不明点多し)。♂は花によく来ている。奄美諸島産はアカアシハラナガツチバチ(亜種)になる。

似た虫 ヒメハラナガツチバチ：ひとまわり小さくて、足は黒、腹は白と黒のまだら。

(ほかにも似た種があるので要注意) → 足が赤かっ色なのはほかにいない。



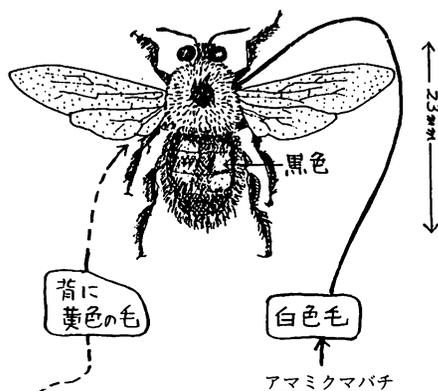
## 231 アマミクマバチ (コシブトハナバチ科)

時期 3～10月

場所 人里から山地まで、草や木のまわり、ひらけた丘の頂上など。

解説 生態・生活史は不明。クマバチ(近縁種)から推定すれば、枯れ木にトンネルを掘って巣をつくるのか? 花に来ているもののほか、空中で追飛をしている♂が目につく。

似た虫 県本土、三島村、種子島、屋久島にはクマバチ、口永良部島、十島村(トカラ)、奄美大島、徳之島、喜界島(?)にはアマミクマバチ、沖永良部島、与論島(?), 沖縄本島にはオキナワクマバチ。



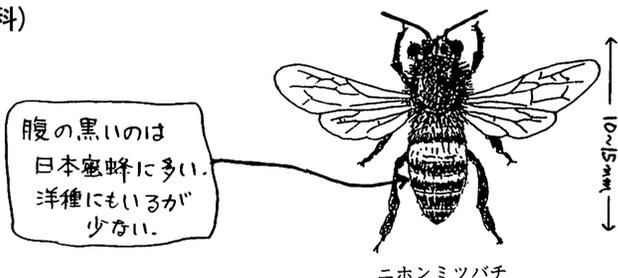
## 232 ニホンミツバチ (ミツバチ科)

時期 3～10月

場所 樹林近くの野生種の花が多いところ。あでやかな栽培種の花は蜜が少ないのか、あまり好まれない。

解説 日本の在来種で昔は飼育されてきた。大木の割れ目などに巣をつくる。

似た虫 セイヨウミツバチ：西洋の名のとおり移入種。飼育される。温かい冬でも活動する。



後羽でちがいがわかる

セイヨウミツバチ  
(ヨウシュミツバチ)

ニホンミツバチ



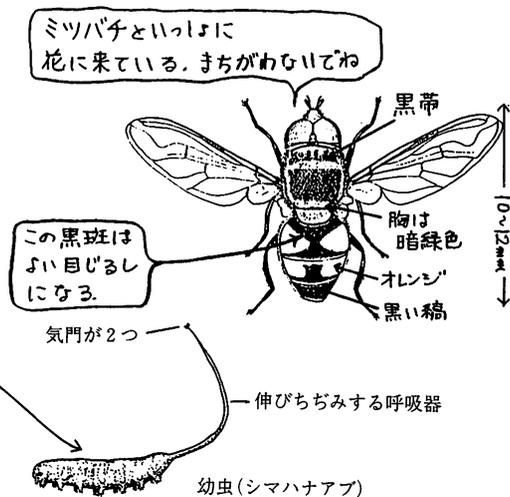
### 233 シマハナアブ (ハナアブ科)

時期 3～11月

場所 花の咲いている明るいところならどこにでもいる。とくにキク科，セリ科の花に多い。冬でも暖かい日には活動する。

解説 幼虫は汚水の中で生活するウジ。成虫はハチに似ているが刺さない。

似た虫 ハナアブ：同じようなところにいるが大型 (15～17mm)，胸が黄土色。



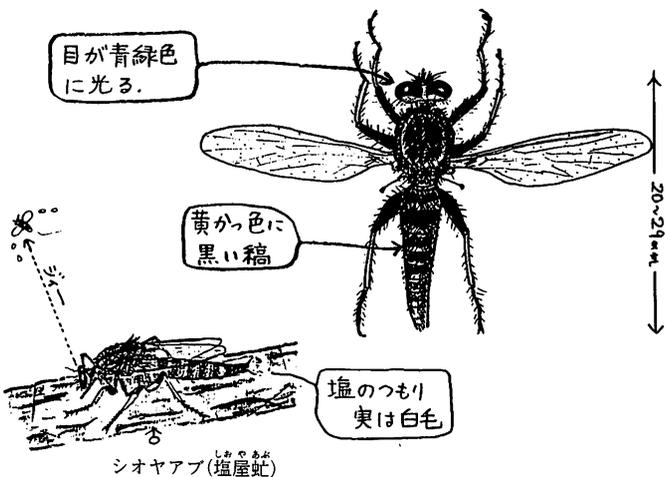
### 234 アオメアブ (ムシヒキアブ科)

時期 6～9月

場所 平地～山地の林縁，人里にも多い。

解説 見晴らしのよい葉上などにとまり，近くを飛ぶ昆虫をつかまえて体液を吸う。手づかみは危ない。

似た虫 シオヤアブ：体は黒く，♂は腹端に白毛がある。



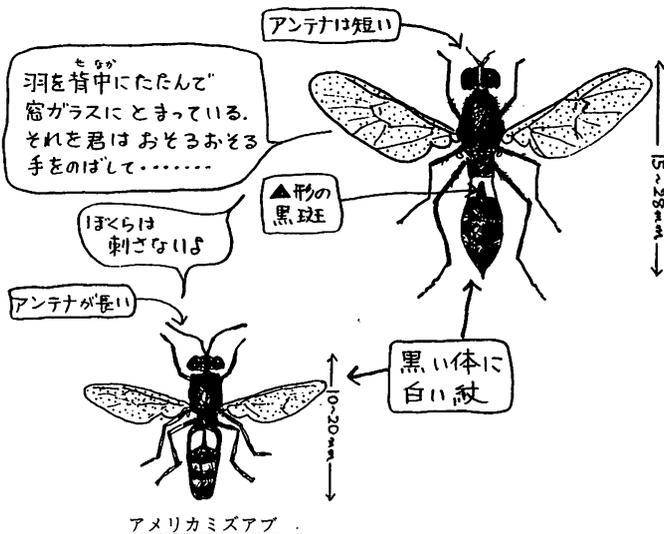
### 235 コウカアブ (ミズアブ科)

時期 春～夏，秋(?)

場所 人里の便所，畜舎，ちりだめの周辺。

解説 後架すなわち便所で発生するアブ。水洗便所ではだめだが，便池のあるやつならおなじみのはず。

似た虫 アメリカミズアブ：昭和25年頃アメリカから日本に入る。奄美大島にもいるが，本県で未侵入のところがあるか？



# 索 引

選ばれた昆虫90種以外に、この解説書で取りあげた昆虫(144種)〈下線は県本土の90種に選ばれたもの〉

<p><b>ア</b></p> <p>アオタテハモドキ 86</p> <p>アカハネオンブバッタ 73</p> <p>アマシシカクワガタ 90</p> <p>アマシシバズ 73</p> <p>アマミハンミョウ 89</p> <p>アマミヒゲコメツキ 93</p> <p>アマミミヤマクワガタ 90</p> <p>アメイトンボ 70</p> <p>アメリカミズアブ 97</p> <p><b>イ</b></p> <p>イシガキシロテンハナムグリ 92</p> <p>イソカナタタキ 73</p> <p><b>ウ</b></p> <p>ウスキシロチョウ 81</p> <p>ウスコモンマダラ 83</p> <p>ウスバカマキリ 71</p> <p>ウチワヤンマ 68</p> <p>ウラギンズジヒョウモン 84</p> <p>ウラギンヒョウモン 84</p> <p><b>エ</b></p> <p>エダナナフシ 72</p> <p>エンマコオロギ 72</p> <p><b>オ</b></p> <p>オオウラギンヒョウモン 84</p> <p>オオカマキリ 71</p> <p>オオキンカメムシ 76</p> <p>オオギンヤンマ 69</p> <p>オオゴキブリ 71</p> <p>オオシマアオハナムグリ 92</p> <p>オオシマゴマダラカミキリ 93</p> <p>オオシマゼミ 77</p> <p>オオシマドウガネ 91</p> <p>オオスズメバチ 95</p> <p>オキナワクマバチ 96</p> <p>オキナワスジボタル 94</p> <p>オキナワルリチラシ 88</p> <p><b>カ</b></p> <p>カネタタキ 73</p> <p><u>カマキリ</u> 71</p> <p><b>キ</b></p> <p>キョウトアオハナムグリ 92</p> <p>キアゲハ 79</p> <p><u>キイトンボ</u> 68</p>	<p>キイロスズメバチ 95</p> <p>キハラモンシロモドキ 89</p> <p><b>ク</b></p> <p>クツワムシ 72</p> <p>クマバチ 96</p> <p>クリサキテントウ 93</p> <p>クルマバッタ 74</p> <p>クロイワニイニイ 77</p> <p><u>クロコノマチョウ</u> 87</p> <p>クロゴキブリ 71</p> <p>クロスジギンヤンマ 69</p> <p>クロツバメ 88</p> <p>クロツヤコオロギ 73</p> <p><b>ケ</b></p> <p>ゲンジボタル 94</p> <p><b>コ</b></p> <p>コエビガラスズメ 87</p> <p>コカマキリ 71</p> <p>コガタガムシ 90</p> <p><u>コクワガタ</u> 90</p> <p>コシブトトンボ 71</p> <p>コセアカアメンボ 76</p> <p>コハンミョウ 89</p> <p>コブナナフシ 72</p> <p><u>コミスジ</u> 85</p> <p>コモンマダラ 83</p> <p>コワモンゴキブリ 71</p> <p><b>サ</b></p> <p>サツマウバタマムシ 92</p> <p>サツマニシキ 88</p> <p><b>シ</b></p> <p><u>シオヤアブ</u> 97</p> <p>ショウリョウバッタモドキ 74</p> <p>シマアメンボ 76</p> <p>シルビアシジミ 82</p> <p>シロスジコガネ 91</p> <p>シロスジトモエ 88</p> <p>シロテンハナムグリ 92</p> <p><b>ス</b></p> <p>スジグロシロチョウ 81</p> <p>スジブトヒラタクワガタ 91</p> <p><b>セ</b></p> <p>セイヨウミツバチ 96</p> <p>セグロアシナガバチ 95</p>	<p><b>タ</b></p> <p>タイワンアサギマダラ 83</p> <p>タイワンシオカラトンボ 69</p> <p>タイワンツチイナゴ 74</p> <p>タイワントビナナフシ 72</p> <p>タイワンハネナガイナゴ 75</p> <p>タイワンホソヘリカメムシ 75</p> <p><u>タマムシ</u> 92</p> <p><b>チ</b></p> <p>チャバネゴキブリ 71</p> <p>チャバネセセリ 78</p> <p><b>ツ</b></p> <p><u>ツクツクボウシ</u> 77</p> <p>ツマグロキチョウ 81</p> <p><b>ト</b></p> <p>トゲヒシバッタ 73</p> <p>トビナナフシ 72</p> <p>ドウガネブイブイ 91</p> <p><b>ナ</b></p> <p>ナツアカネ 70</p> <p>ナナフシモドキ 72</p> <p>ナナホシテントウ 93</p> <p><u>ナミテントウ</u> 93</p> <p><b>ノ</b></p> <p><u>ノコギリクワガタ</u> 90</p> <p><b>ハ</b></p> <p>ハナアブ 97</p> <p>ハネナガヒシバッタ 73</p> <p>ハネビロトンボ 70</p> <p><b>ヒ</b></p> <p>ヒナカマキリ 71</p> <p>ヒメアカタテハ 85</p> <p>ヒメアカネ 70</p> <p>ヒメアメンボ 76</p> <p>ヒメイチモンジセセリ 78</p> <p>ヒメイトトンボ 68</p> <p><u>ヒメウラナミジャノメ</u> 86</p> <p>ヒメカマキリ 71</p> <p>ヒメガムシ 90</p> <p>ヒメクロウリハムシ 94</p> <p>ヒメジャノメ 86</p> <p>ヒメスズメバチ 95</p> <p>ヒメハラナガツチバチ 96</p> <p>ヒメボタル 94</p>
---	---	---

ヒラタヒシバツタ	73	ミ		ユ	
ヒロバナカンタン	73	ミカドアゲハ	78	ユウレイセセリ	78
フ		ミナミコモンマダラ	83	ヨ	
フタモンアシナガバチ	95	ミヤマカラスアゲハ	80	ヨナグニサン	88
ヘ		ム		リ	
ヘイケボタル	94	ムラサキツバメ	82	リュウキュウオオスカシバ	87
ベニトンボ	70	ムラサキツヤハナムグリ	92	リュウキュウオオハナムグリ	92
ベニイトトンボ	68	メ		リュウキュウオカメコオロギ	73
ベニモンアゲハ	80	メスアカムラサキ	84	リュウキュウギンヤンマ	69
ホ		メスグロヒョウモン	84	リュウキュウツツレサセコオロギ	73
ホシボシキチョウ	81	ヤ		リュウキュウヒメミズスマシ	89
ホソミシオカラトンボ	69	ヤシオオサザウムシ	94	ル	
マ		ヤスマツトビナナフシ	72	ルリウラナミシジミ	83
マダラスズ	73	ヤマトアシナガバチ	95	ルリバナウリハムシ	94
マユタテアカネ	70	ヤマトヒバリ	73	ワ	
マルシラホシカメムシ	75			ワモンゴキブリ	71

## 参 考 文 献

検索入門セミ・バッタ	1992	宮武頼夫ほか	保育社
原色日本昆虫図鑑(下)	1981	伊藤修四郎ほか	〃
原色日本蝶類図鑑	1976	川副昭人・若林守男	〃
原色日本蝶類生態図鑑(Ⅰ～Ⅳ)	1982～84	福田晴夫ほか	〃
原色日本蝶類幼虫大図鑑(Ⅰ・Ⅱ)	1979～82	白水隆・原章	〃
原色日本昆虫生態図鑑(Ⅰ～Ⅲ)	1969～72	小島圭三ほか	〃
原色日本甲虫図鑑(Ⅱ～Ⅳ)	1984～85	上野俊一ほか	〃
原色日本蛾類幼虫図鑑(上・下)	1965, 69	一色周知ほか	〃
原色昆虫大図鑑(Ⅰ～Ⅲ)	1959～65	井上寛ほか	北隆館
日本昆虫図鑑	1954	石井悌ほか	〃
日本幼虫図鑑	1959	河田党ほか	〃
日本産ゴキブリ類	1991	朝比奈正二郎	中山書店
日本産昆虫総目録	1989	平嶋義宏監修	九州大学農学部昆虫学教室
日本産蝶類大図鑑	1975	藤岡知夫	講談社
日本産蛾類大図鑑(Ⅰ・Ⅱ)	1982	井上寛ほか	〃
日本産トンボ大図鑑	1985	浜田康ほか	〃
日本蜂類生態図鑑	1982	岩田久二雄	〃
蛾類生態便覧(上・下)	1983	宮田彬	昭和印刷出版事業部
大阪の昆虫(陸生編Ⅰ)	1978	日浦勇ほか	大阪市立自然史博物館
第5回特別展「鳴く虫」解説書	1978	〃	〃
奄美群島の昆虫	1969	福田晴夫	鹿児島昆虫同好会
屋久島の昆虫相	1973	岡留恒丸	屋久町教育委員会
日本の重要な昆虫類(南九州・沖縄版)	1980	環境庁(編)	大蔵省印刷局
屋久島原生自然環境保全地域調査報告書	1984		環境庁自然保護局

